

# Akira Yoshizawa ORIGAMI



米寿記念 吉澤 章  
創作折り紙展

Akira Yoshizawa ORIGAMI

— 米寿記念 —

吉澤 章

Akira Yoshizawa ORIGAMI

創作折り紙展

## ごあいさつ

吉澤章さんは、1911年（明治44年）、栃木県に生まれました。4歳の頃、近所のお姉さんが折ってくれた「舟」に感動し、折り紙に魅せられました。13歳で上京、さまざまな職業につきながら独自の創作折り紙に取り組み、40歳の時、『アサヒグラフ』の「折り紙の新世界」に紹介され、以来、新聞や雑誌、展覧会などで普及活動を行ってきました。

1955年、オランダのアムステルダム市立美術館で海外初の個展を開催。外務省や国際交流基金などの依頼により、「親善大使」として50カ国以上に折り紙を紹介。のりやハサミを使わずに、一枚の紙で折り上げる作品は、画期的な造形美術 ORIGAMIとして注目を浴びました。

本展は、吉澤さんの米寿を記念して開くもので、1992年のセビリア万国博覧会日本政府館に展示された「日本の四季」ジオラマを再現するほか、代表作品約1,000点を併せて展示し、80余年の集大成としての創作折り紙芸術を紹介します。

最後に、本展開催にあたり、ご協力賜りました関係各位に心からお礼申し上げます。

朝日新聞社





文化、芸術に優れた伝統を有する日本の土壌に培われた私は、紙を折るだけで形づくことに専念してきました。自然界の法則性や幾何学を縦糸に、私の感性を横糸として絡ませ、折り線の構成を試み、創作を続けています。

1955年にハーバード大学のG・レグマン教授の助力により、初めてオランダで個展を開くことができました。1966年の外務省に続いて、国際交流基金からも海外に派遣され、また朝日新聞社とのエスパス・ピエール・カルダン劇場（パリ）での個展などにより、内外の人々から新しい紙の造形として認識され、折り紙は広く普及しました。

この度、朝日新聞社及び各方面のご理解とご支援により、80余年の折り紙の道のりを展覧して頂くことになりました。

様々な文化や高度の科学技術の交錯する現代ですが、豊かな人間性と格調ある折り紙を次の世紀に託したいと心から念じます。ご高覧をお願い申し上げます。

吉澤 章

## 米寿記念展によせて

国際交流基金  
理事長

藤井 宏昭

「米寿記念 吉澤章 創作折り紙展」の開催を心よりお慶び申し上げます。

国際交流基金は、学術・芸術からスポーツ、日本語教育までの広い分野にわたる文化交流を通じて国際相互理解と、国際友好親善を促進することを目的として1972年（昭和47年）に事業を始めました。

世界各国に日本の文化を紹介する中で、日本の誇る民芸文化である「折り紙」に対する世界各国の関心は高く、これに応えるため、当基金としてもいろいろな機会を通じて世界各地への紹介を続けてまいりました。吉澤先生には1972年の欧州を始めとして、アジア・北米・中南米など世界各国での折り紙紹介事業に繰り返しご協力いただいております。

ユニークで創造的な吉澤先生の折り紙は、最近、立体デザインや高齢者のリハビリテーション活動などに活躍の場を広げておられると伺います。ご訪問先の各国でも幼児教育関係者のみならず、文化関係者、学生、一般市民等まで数多くの人々を魅了し、繊細で細やかな日本文化の象徴であるという評価を受けました。

吉澤先生は日本伝統の「折り紙」を世界共通語の「ORIGAMI」に変えつつあります。

世界の人たちが、さらに折り紙を身近に感じ、慣れ親しめるようになることを願ってやみません。

吉澤先生のさらなるご活躍を祈念しております。

## 目次

主催者あいさつ3／作家あいさつ5／米寿記念展によせて 国際交流基金 理事長 藤井宏昭7／折り神 グラフィックデザイナー・東京芸術大学客員教授 福田 繁雄10

## 図版

### 生命あるものの賛歌——13

#### —架空のいきもの—

昇り龍 降り龍14／龍15

#### —恐竜—

ティラノサウルス16／トリケラトプス17／ステゴサウルスなど18-19

#### —動物—

象の親子20／象21／アフリカ象・インド象22／マンモス23／きりん24／らくだ25／ライオン26／虎27／さい28／かば29／熊30／パンダ31／闘牛・牛32／馬33／ゴリラの親子34／ゴリラ35／猿の子ども36／ボス猿37／コアラ38／カンガルー39／ライラック・ニュージーランドレッド40／フレンチアンゴラ41／羊42／猪の親子43／ぶた44／狐45／ねずみ46／りす47／世界の犬48／秋田犬の親子49／シェパード・ドーベルマンピンシェル・エアデールテリア50／ブルドッグ・ダックスフント・パピヨン51／遊ぶ猫たち52／丸い目の猫53／十二支54-57

鶏の仲間 東天紅・小国・地鶏58／ちゃぼ59／鳥の仲間 コンドル60／鷲61／あひる・かるがも62／白鳥63／鶴の求愛64／鶴の巣籠65／孔雀66／鷺67／みみずく68／こうもり（哺乳動物）69／鶺鴒70／子雀71／

#### —海のいきもの—

タコ・イカなど72-73／タツノオトシゴ74／伊勢海老・カニ・ハマグリ・サザエ75

#### —氷の世界—

ペンギン76／白熊77

#### —虫の仲間—

虫の仲間78-79／カブトムシ・クワガタムシ・蝉80／スカラベ・落し文・カマキリ81／蟻・青虫82

### 子どもたちへのメッセージ——83

#### —日本の四季—

春84／夏85／秋86／冬87

#### —歳時記—

1月 お正月88／3月 雑祭り・5月 端午の節句89／7月 七夕・9月 お月見90／12月 クリスマス91

#### —物語—

花咲か爺92／ジャックと豆の木・ピノッキオの冒険93／狐火の幻想94／キャピトルの狼95／舌きりすずめ96／ピーターと狼97／文福茶釜98

### 精神世界への扉——99

#### —顔・仮面—

自画像・原人・古代の人100／あくびとくしゃみ・痛い・かわいい101／仏面・般若面・ナイト102／瞑想・平和の祈り103／体操104／舞105

#### —抽象—

大地の声106／笑いこけた母狐107／捨身供養108

### 折り方——110

恐竜 イグアナドン110／象112／きりん114／らくだ116／パンダ118／猿120／コッカー・スバニエル122／白鳥124／鶺鴒126／ウミガメ128／マンタ130／ねずみ132／はねうさぎ133／カニ134／はねがえる135／あげはちょう136

### 略歴——138

## 折り神

グラフィックデザイナー  
東京芸術大学客員教授

福田 繁雄

私が監修し、構成した「すばらしい紙の世界」という展覧会が1978年、銀座の松屋で開催されました。当時、あらゆる造形分野で活躍している作家29名に、紙を素材にした自信作の参加出品をお願いしたのです。切り紙による絵本作家、紙飛行機の第一人者、幾何学的紙立体を追求しているデザイナー、新しい紙塑人形の作家、江戸の遊具の板返しをアレンジした帯からくりの発見者など、文字通りすばらしい作家の作品群による、日本初の紙の楽しい造形展でした。

特に私は日本の折り紙の作品を、是非とも出品してもらいたいと願っていました。折り紙は私たち日本人が最初に出会う知的なクリエイティブの原点であって、頂点でもあるからです。わが国の物づくりの心にあるのは、シンプルなシステムとユニットの合理性です。それは足袋の「こはぜ」であったり、畳や建具の空間単位などですが、これは日本独特の創作知恵の素晴らしさです。とくに折り紙は誰れでもが参加できる、しかし、奥の深い知恵のゲームです。そして、私は出品依頼のため、初めて吉澤さんのお宅を訪ねたのです。

当時、67才の高齢にもかかわらず、次々と解説付で見せて下さる作品群にすっかり圧倒されてしまったのです。と言うのは、全てが従来の折り紙細工ではないのです。ハサミものりも使わないし、正方形の紙を素材にするところは、まさに伝統的な折り紙システムなのですが、吉澤さんの手から折り出される世界は古い直線折りで出来上がる物たちとは、まったく異った独特なリズムのふくらみを持って生れてくるのです。

「これは折り紙ではない!! 紙技（神技）だ!!」と私は絶句……したのです。

1992年、私はスペインのセビリア万国博の日本館で吉澤さんの大オリジナル・ジオラマの前で、再び「絶句!!」したのです。日本の心を吉澤さんの作品が唄っている、日本の四季に遊ぶ蝶やトンボに蟬の群。それは見事に作られた技のスペクタクル古里でした。折り飾られた吉澤さんの世界に魅せられた人々で一步進むのが本当に大変でしたが、日本のオリジナリティを心から楽しんでくれている入場者の姿にとっても感動して、その一日はス

ペインの空のように気分は上々でした。

同じ年に、パリのユネスコ本部で日本文化祭が開催され、私はその公式ポスターをデザインし、現代日本のポスター展の展示準備のためパリに滞在しました。展示作業中の夕刻、文化担当官に「今夕、日本の人の展覧会のオープニングがある」と誘われて、会場に向ったのですが、ここでも「絶句!!」なんと吉澤さんの個展だったのです。会場は人人で観賞どころか、吉澤さん御夫妻に近づくのがやっと…久しぶりの再会に、乾杯のワインが信じられないおいしさでした。

私が吉澤さんの創作に感銘を受けるのは、いわゆる道を極めるということの先達の厳しい道程を作品を通して見る事が出来るからです。吉澤さんが生み出す動物を見ても、日本という狭い生息地をはるかに越えて全世界、地球レベルの視野で創作するという見事な挑戦があります。イタリアの神話を象徴する子どもに乳をのませる狼も作られています、最高です。この彫刻を折りあげようとする感性には敬服させられてしまいます。

そして、恐竜の群です。ティラノサウルスからイグアノドン、首の長い見事なプロントサウルスや二本角のトリケラトプスなど、これが四角い平面から折りあげられたとは本当に信じられないのです。形だけではなく、1億5千万年の気の遠くなるような空気まで感じられるのです。そしてマンモスです。象の親子のように楽しげではないのです。心なしか滅びの運命を感じているのか、淋し気なのです。感情を持ったマンモスは吉澤さんならではの傑作の1点です。見事なジオラマは海の生物と虫の仲間たちです。私は芸術作品を見て笑うなどということは決してないのですが、これらの作品に逢うといつも笑ってしまうのです。愉快になってしまうのです。ご機嫌なタコやカニ、ご愛嬌のダボハゼ。カタツムリにバッタ、蟻の列にカブトムシ。生々とした生態には、やっぱり笑ってしまいます。

今回、あの「すばらしい紙の世界」から21年ぶりの会場で「すばらしい吉澤の世界」が見られます。日本の造形はいまや、デジタルクリエーションの渦の中に巻き込まれています。あらゆる価値観が変り、かつて体験したことのない新しい世紀に突入する現代、人類が創りあげた、最古の素材（紙）に永々と手作りの見事な生命を創り続けた吉澤さんのクリエーションを、心から観賞し、感動し、鼓舞したいと思います。



いのち      さんか  
生命あるものの賛歌





のぼり 竜 くだり 竜  
のぼり 竜 くだり 竜





943  
龍



ティラノサウルス



トリケラトプス

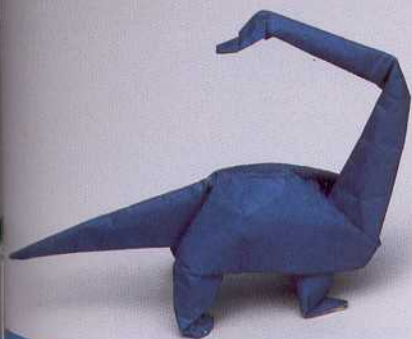


ステゴサウルス

ブロントサウルス

イグアノドン





ブラキオサウルス

アンモナイト

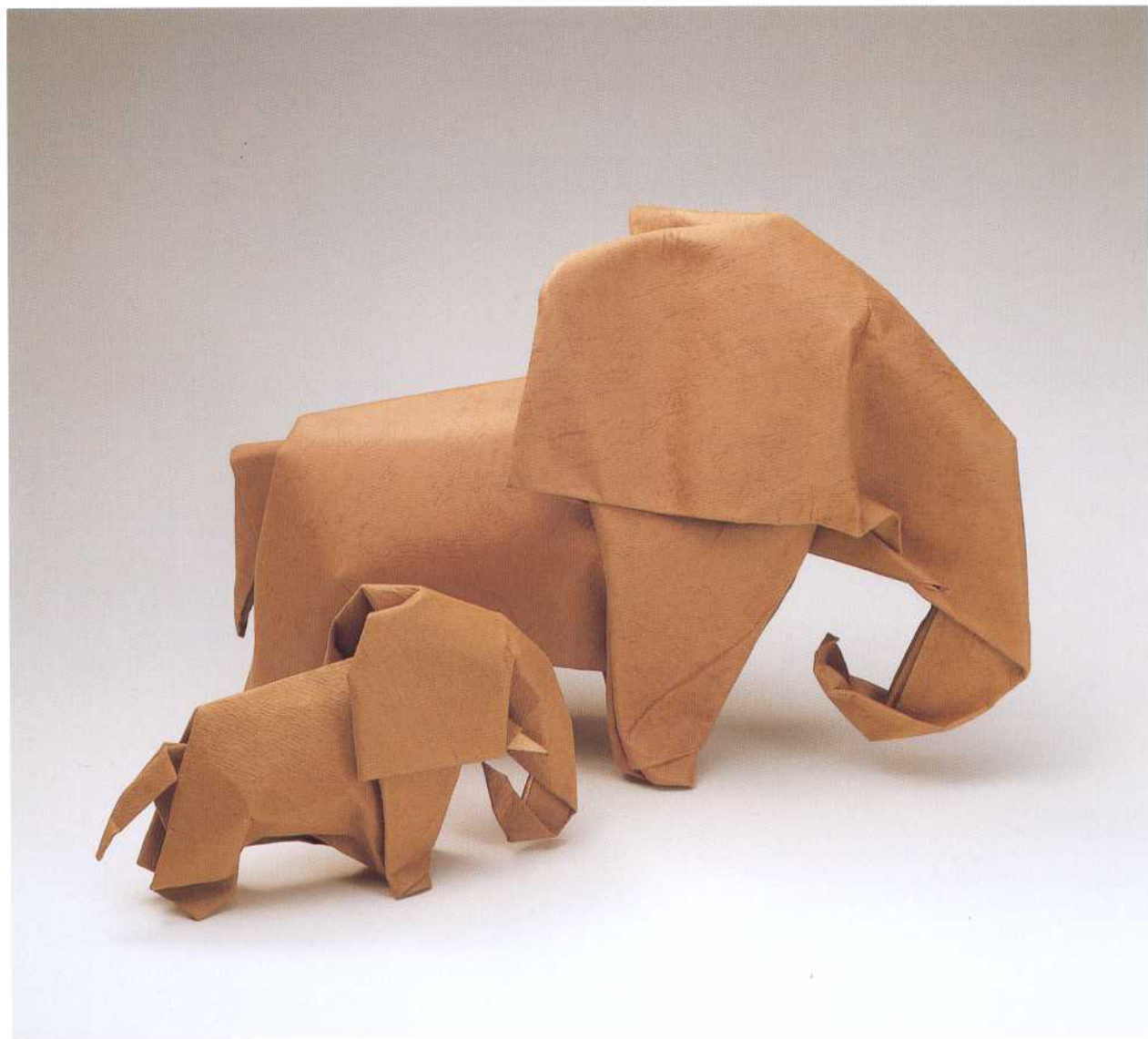
プレシオサルウス

しそちゅう  
始祖鳥

プロトケラトプス

さんようちゅう  
三葉虫

カブトガニ



ぞう おや こ  
象の親子



ぞう  
象





アフリカ象 インド象

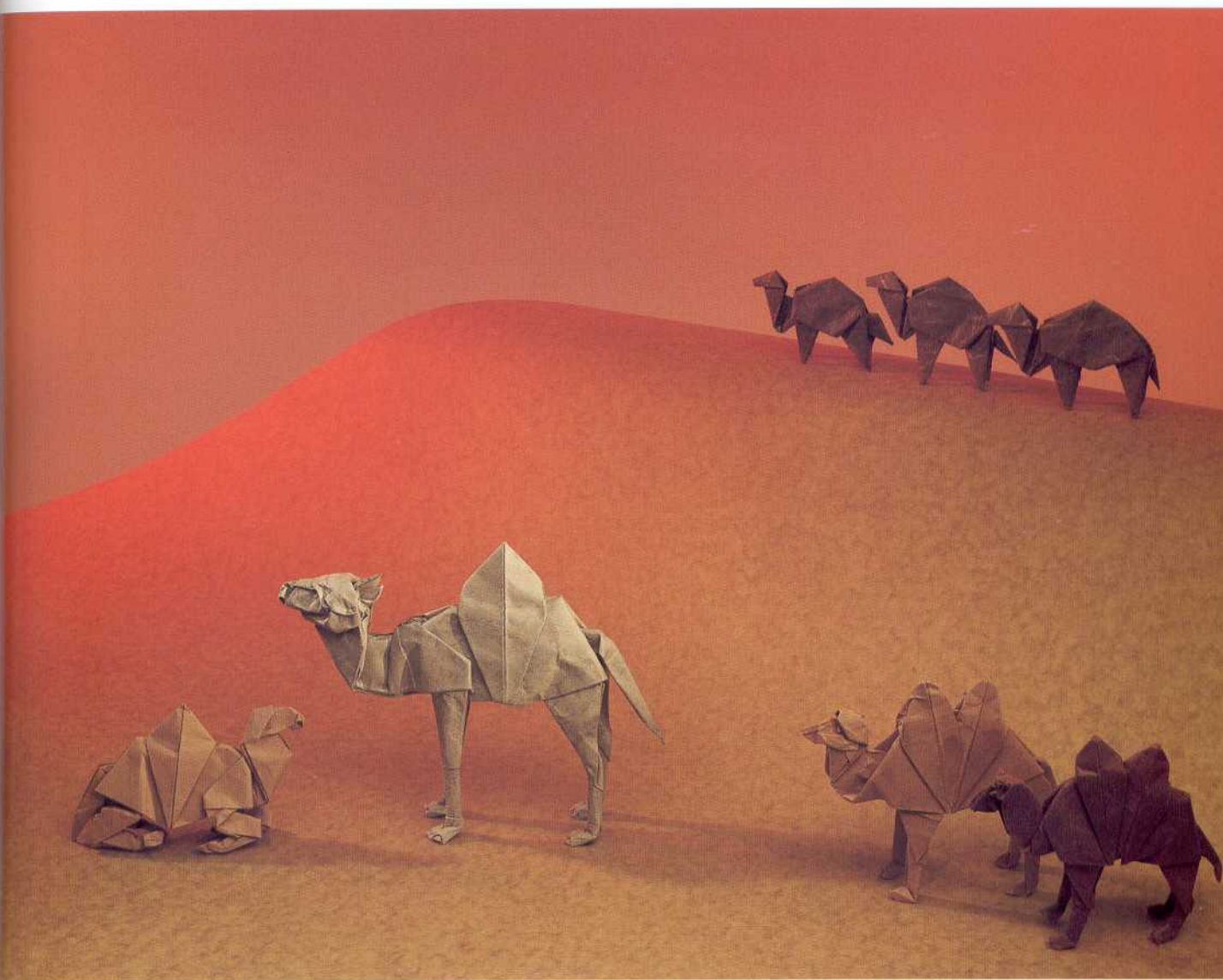




マンモス



きりん



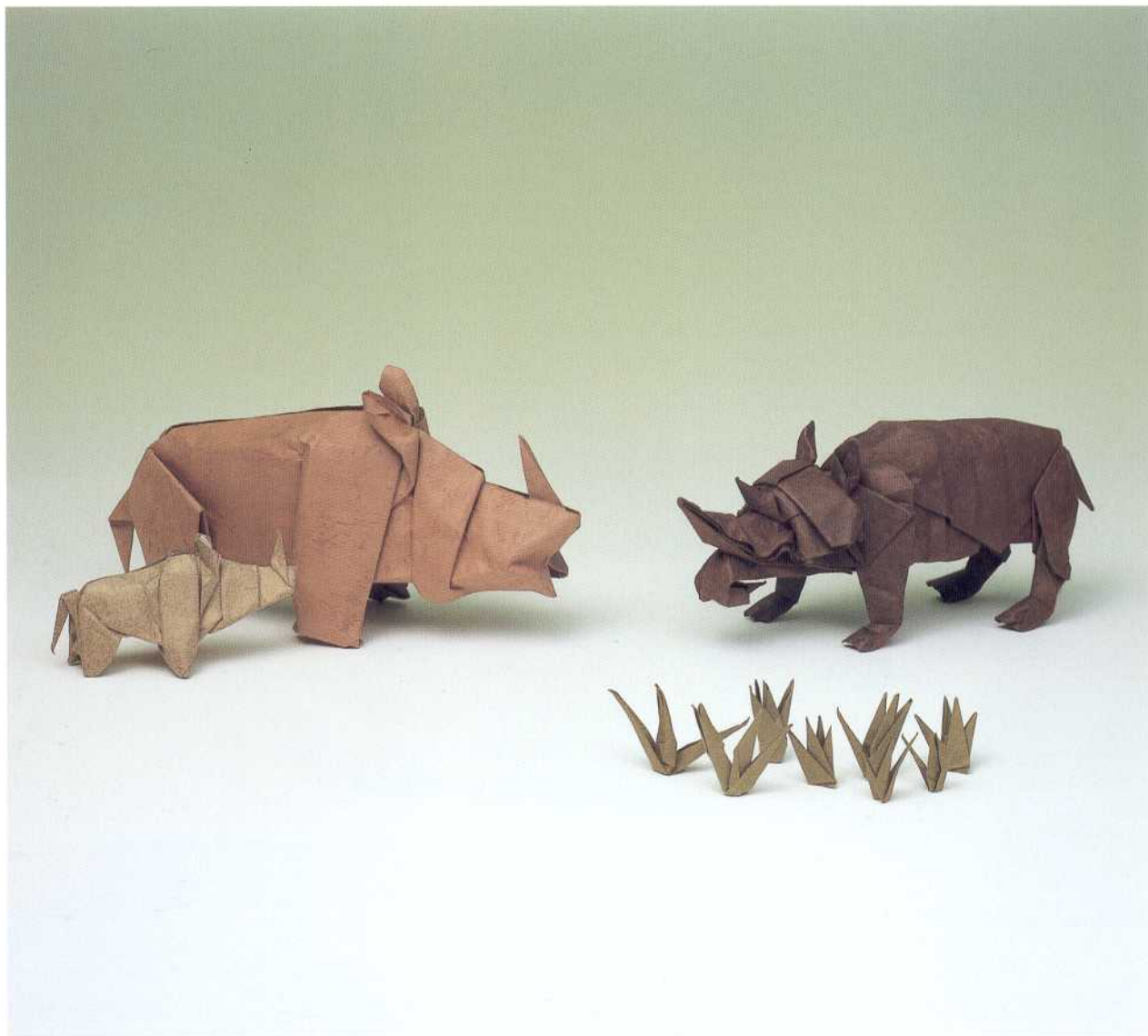
らくだ



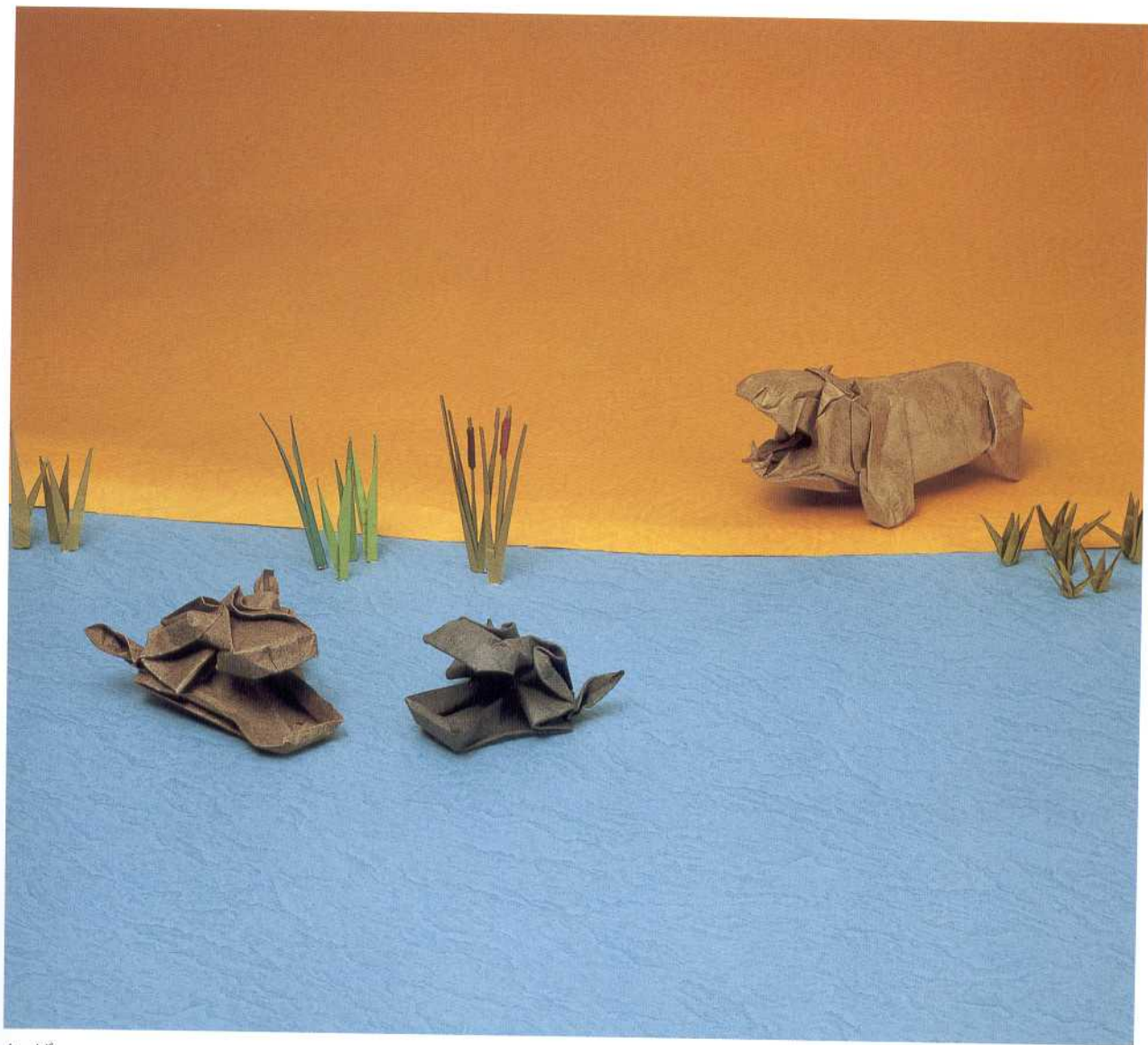
ライオン







さ い



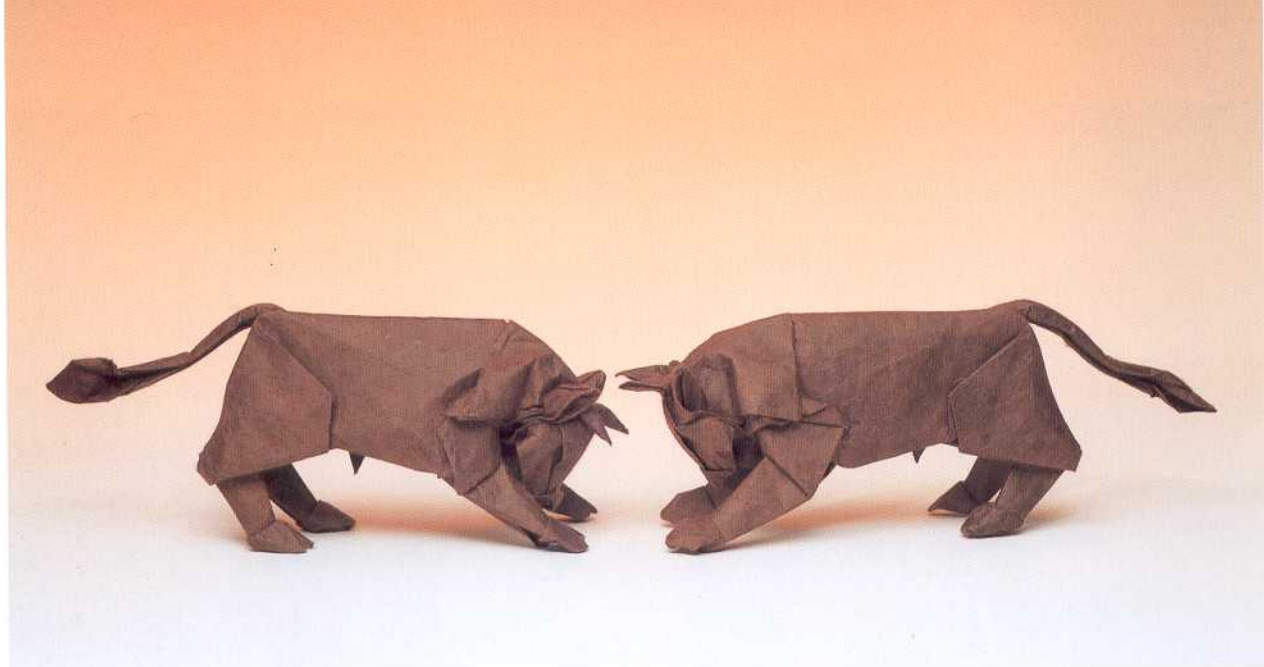
かば





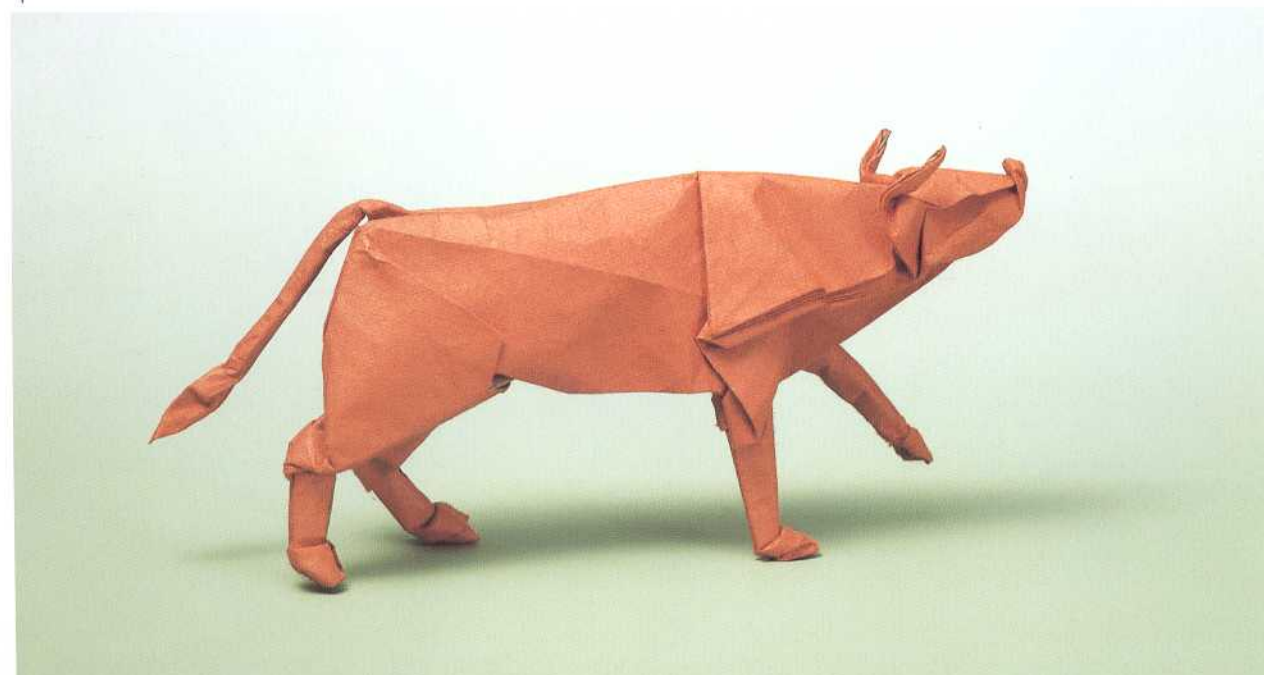


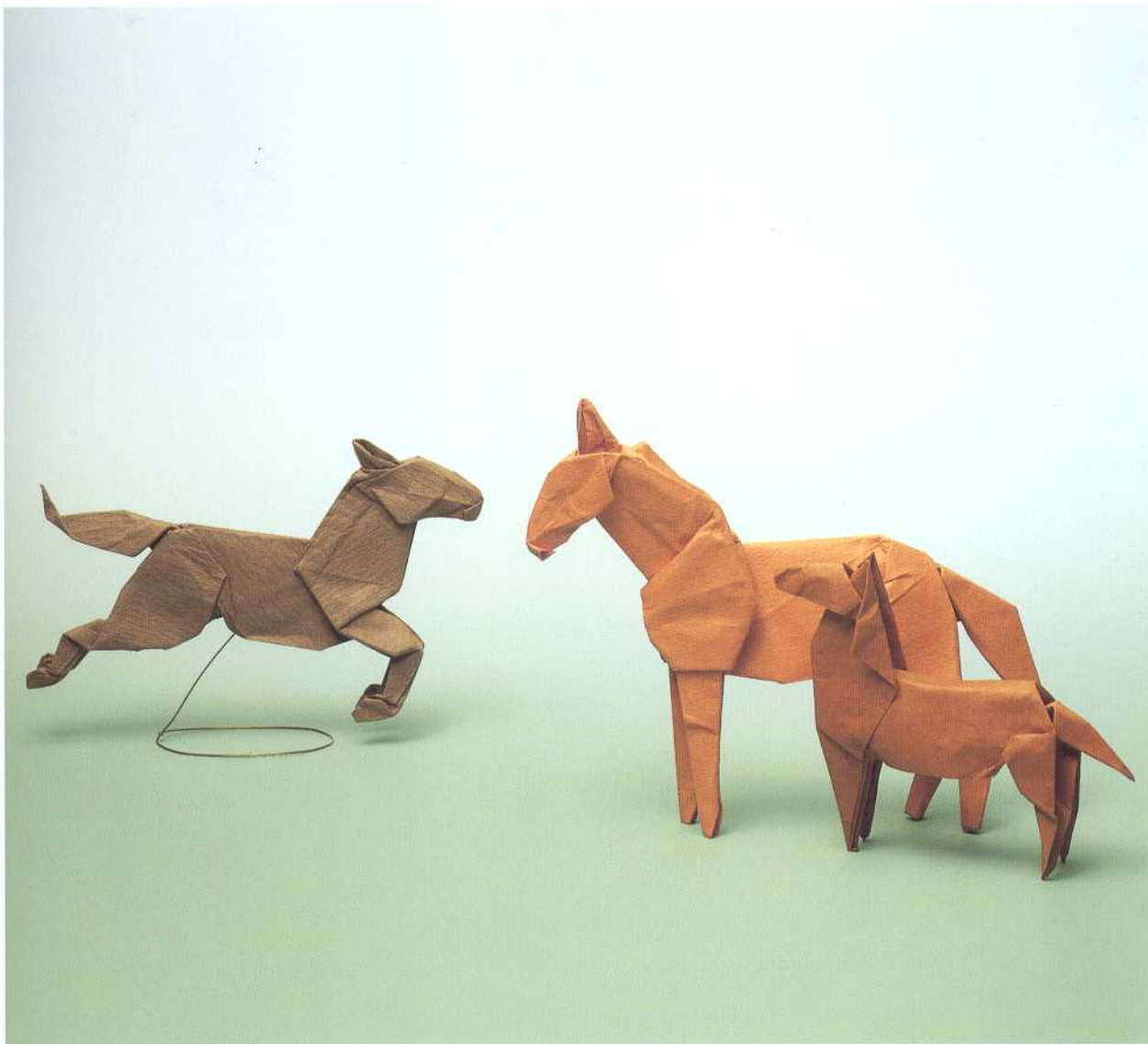
パンダ



とう ぎゅう  
闘 牛

うし  
牛







ゴリラの親子





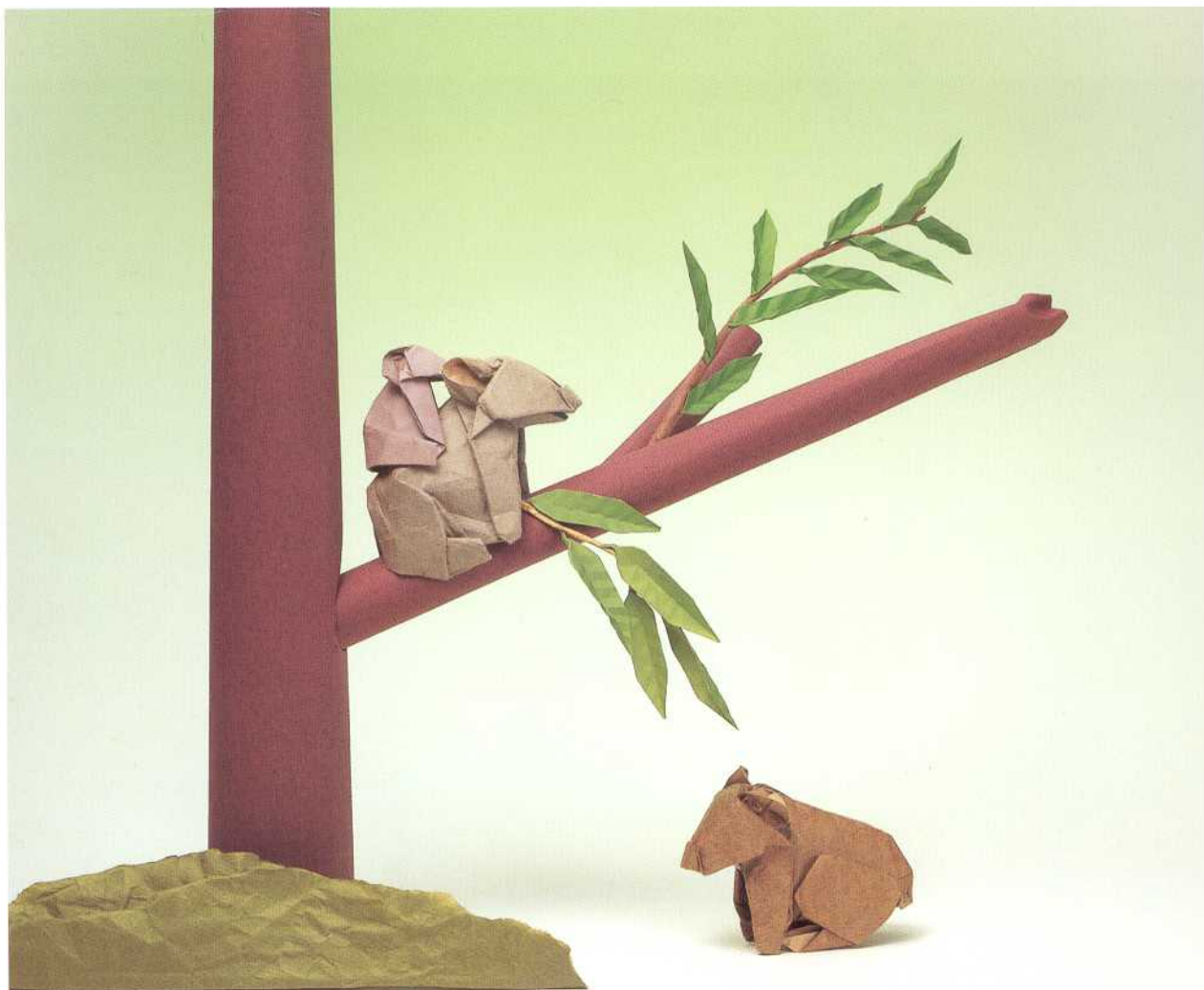
ゴリラ



さる  
猿の子ども



ボス猿<sup>どうる</sup>

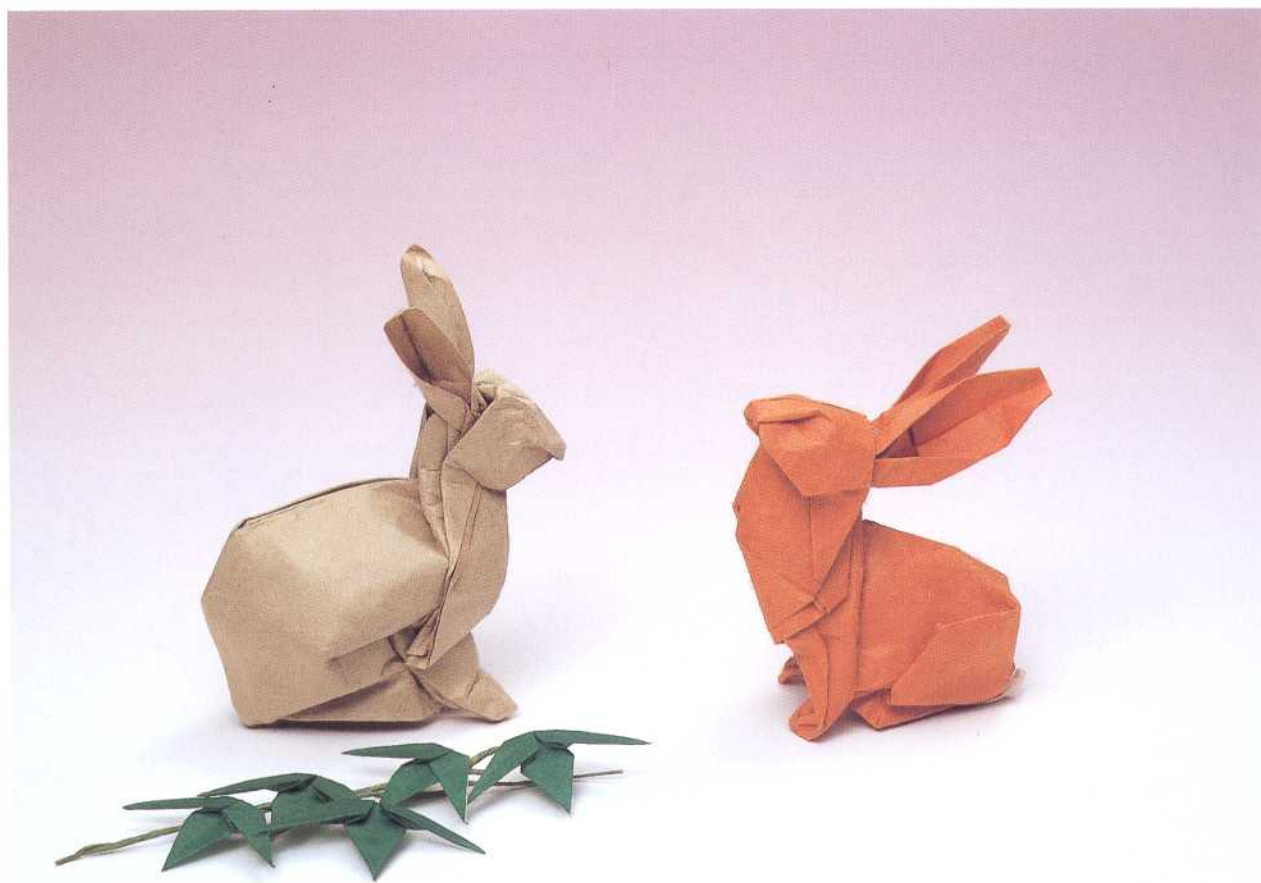


コアラ





カンガルー



ライラック ニュージーランドレッド



フレンチアンゴラ



カウジ  
羊



いしし おやこ  
猪の親子





ふた



122  
狐



ねずみ



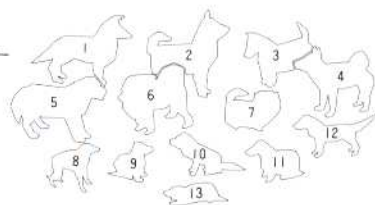
りす



せかい いぬ  
世界の犬

- |               |              |
|---------------|--------------|
| 1 コリー         | 6 チャウチャウ     |
| 2 サモエド        | 7 ポメラニアン     |
| 3 スコティッシュ・テリア | 8 ボルゾイ       |
| 4 紀州犬         | 9 ブラッドハウンド   |
| 5 グレート・ピレニーズ  | 10 セント・バーナード |

- |                 |
|-----------------|
| 11 コッカー・スパニエル   |
| 12 イングリッシュ・セッター |
| 13 コッカー・スパニエル   |



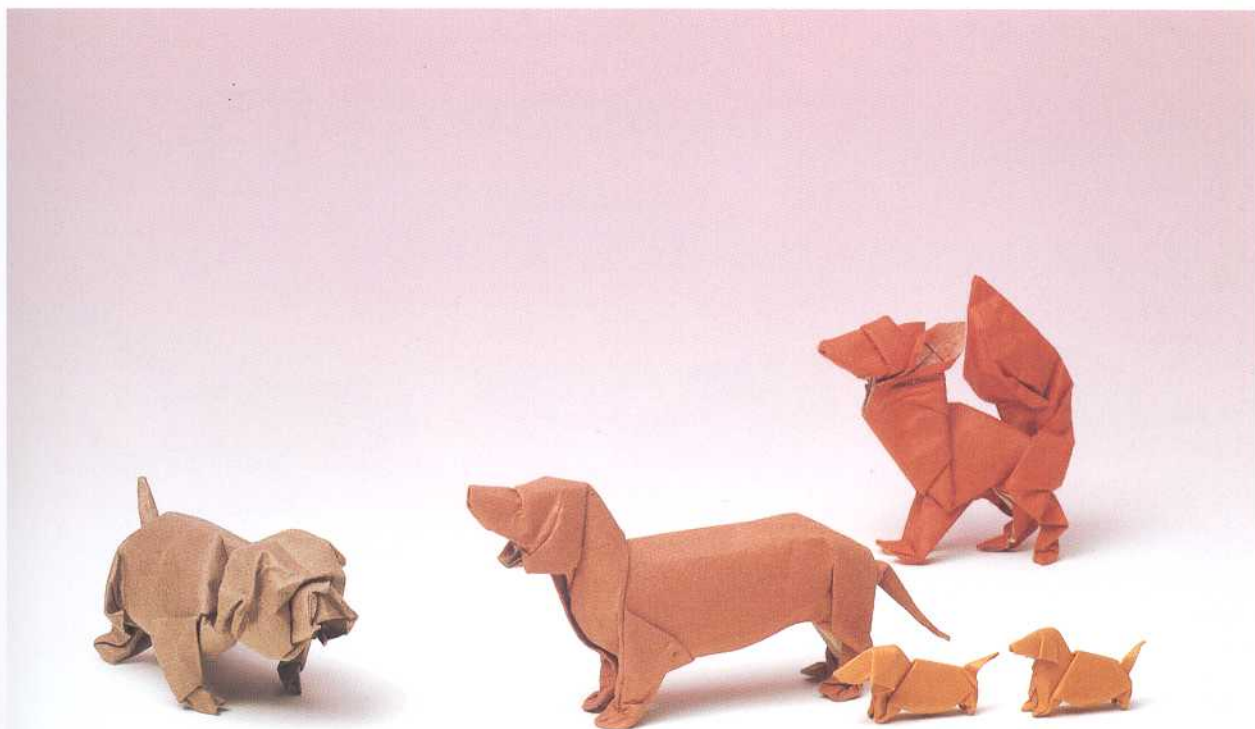




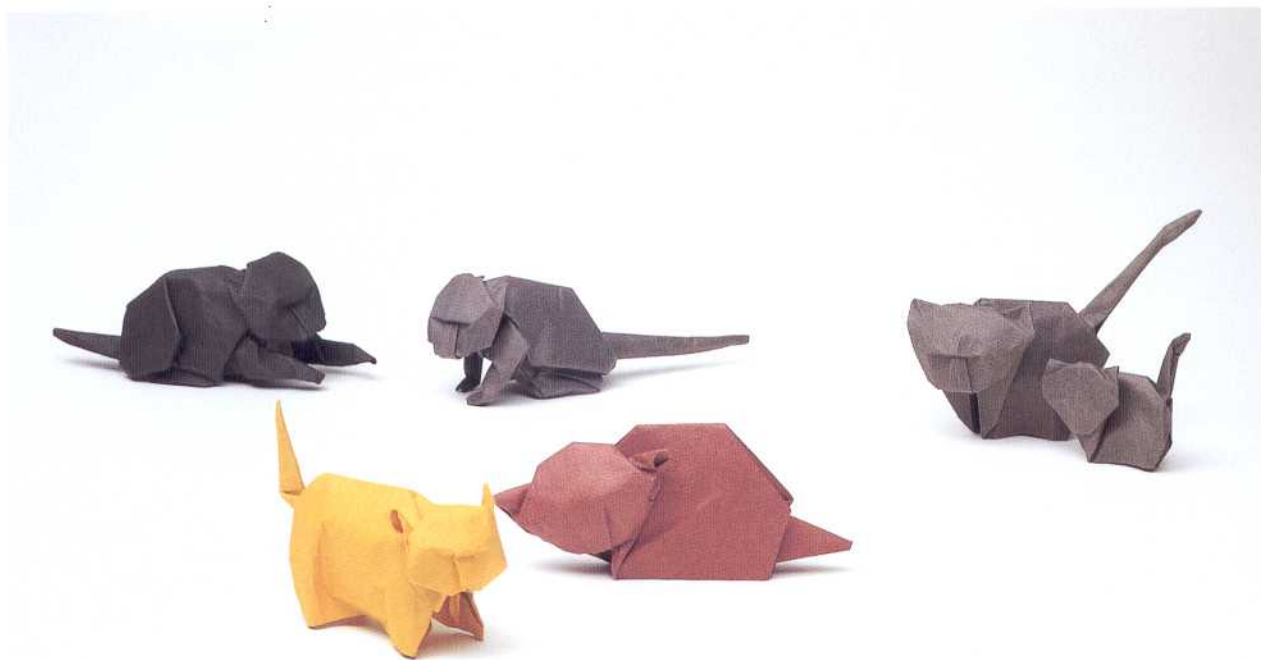
あき た げん おや こ  
秋田犬の親子



シェパード ドーベルマンピンシェル エアデールテリア



ブルドッグ ダックスフント パピヨン

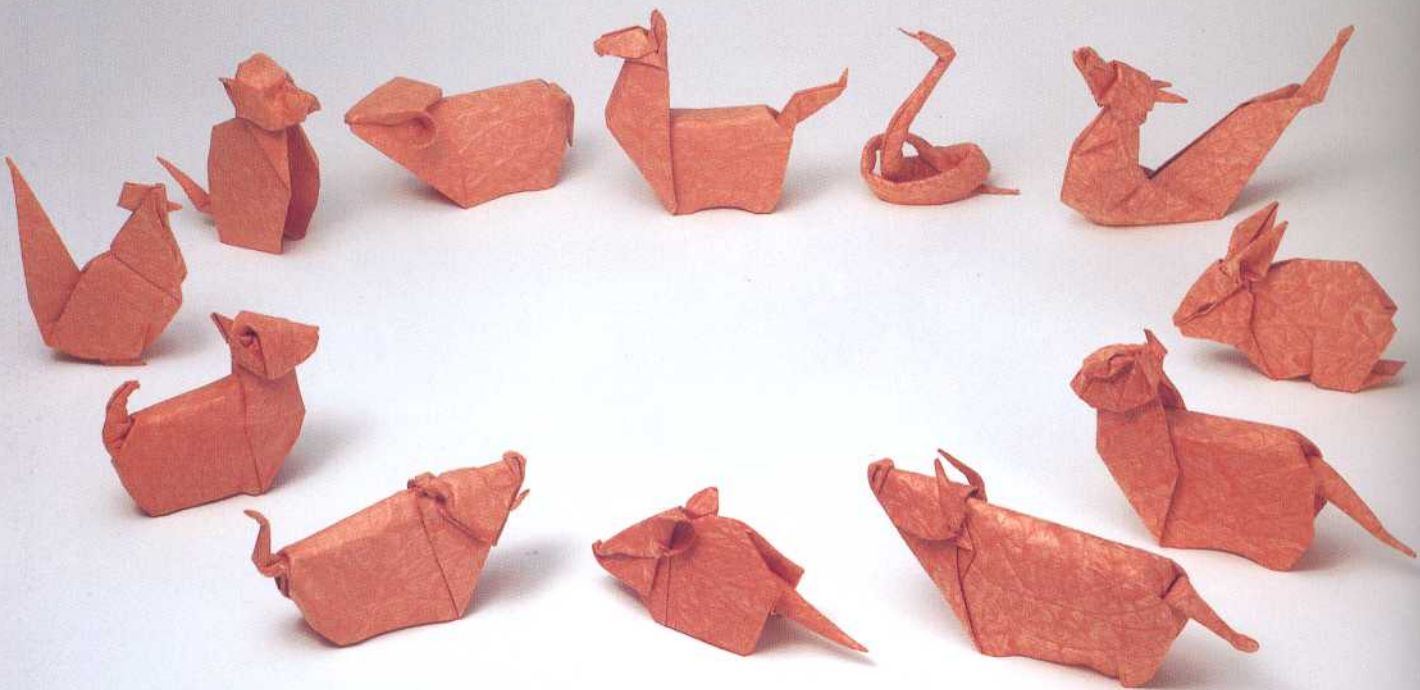


あそ ねこ  
遊ぶ猫たち

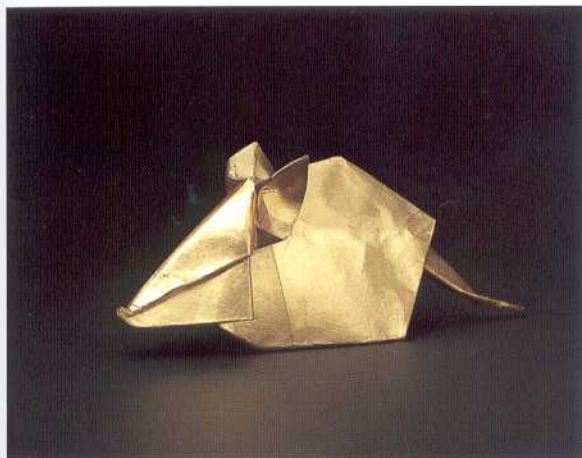


まるめねこ  
丸い目の猫

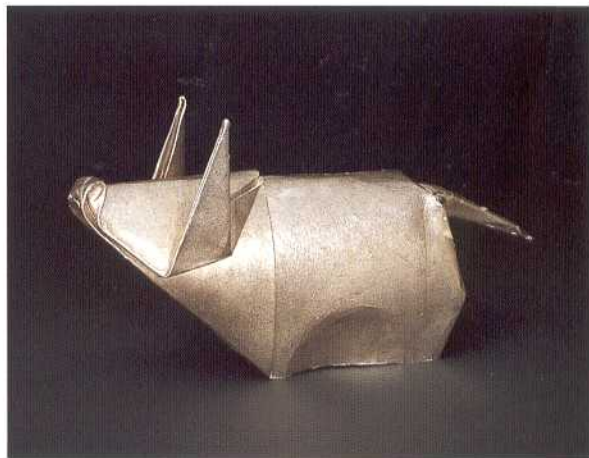




じゅうにし  
十二支



子 (ね)



丑 (うし)



寅 (とら)



卯 (う)



辰 (たつ)



巳 (み)



午 (うま)



未 (ひつじ)





申（さる）



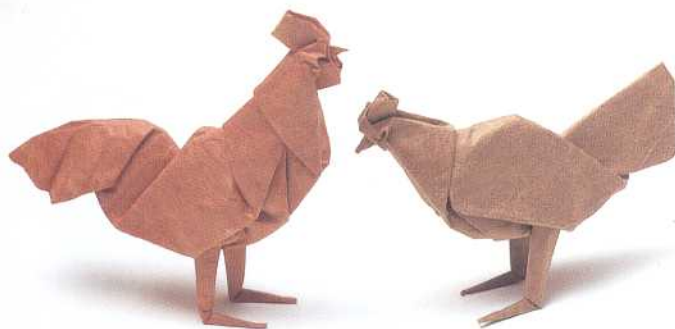
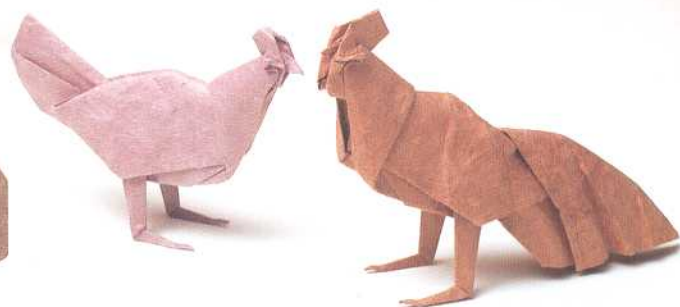
酉（とり）



戌（いぬ）



亥（い）



にわとり なかま とうてんこう しょうこく ぢどり  
 鶏の仲間 東天紅 小国 地鶏





ちやぼ



とり なか ま  
鳥の仲間 コンドル





あひる かるがも





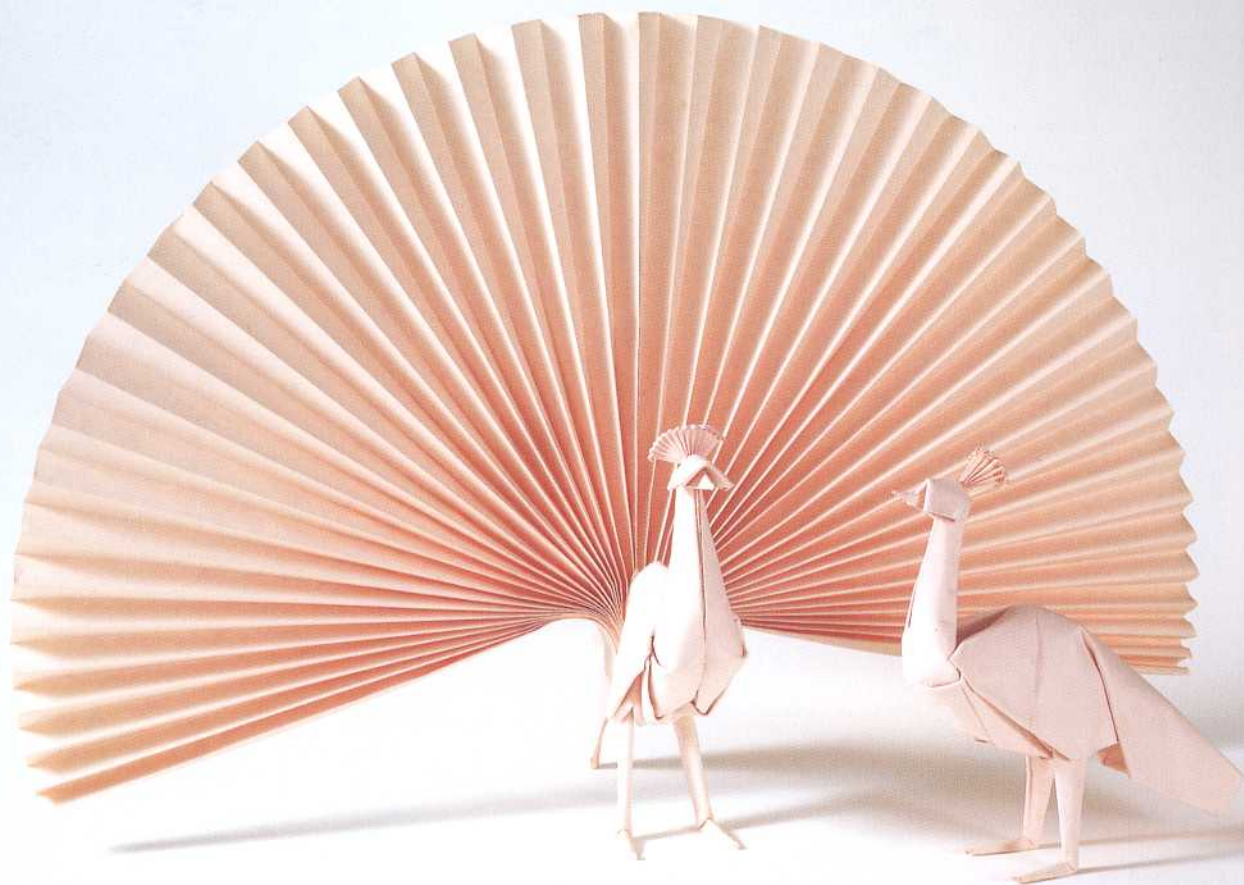




つる きゅうあい  
鶴の求愛



つる すごり  
鶴の巣籠



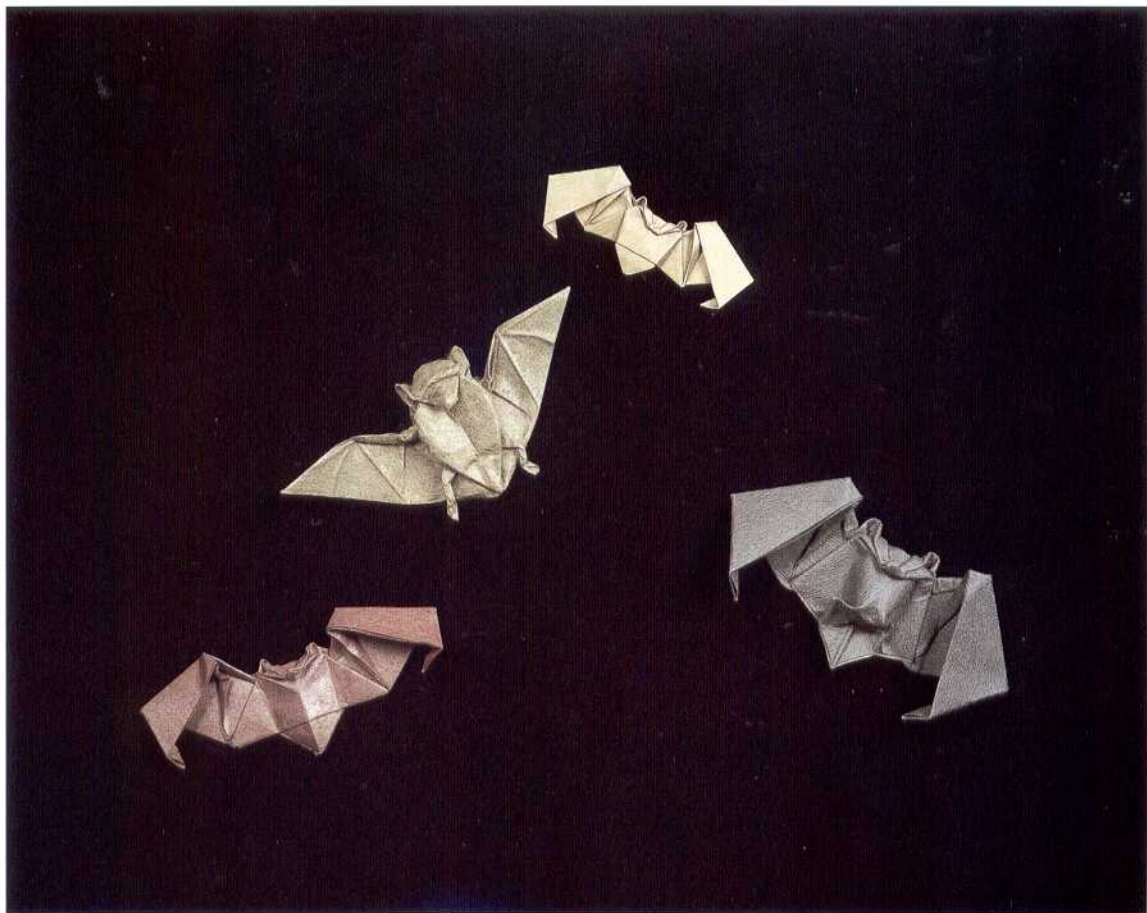
孔雀





みみずく





こうもり



せき れい  
春鳥 令鳥



こ  
子 雀



イソギンチャク タコ イカ ウミガメ 貝 ダボハゼ カニ ヒトデ



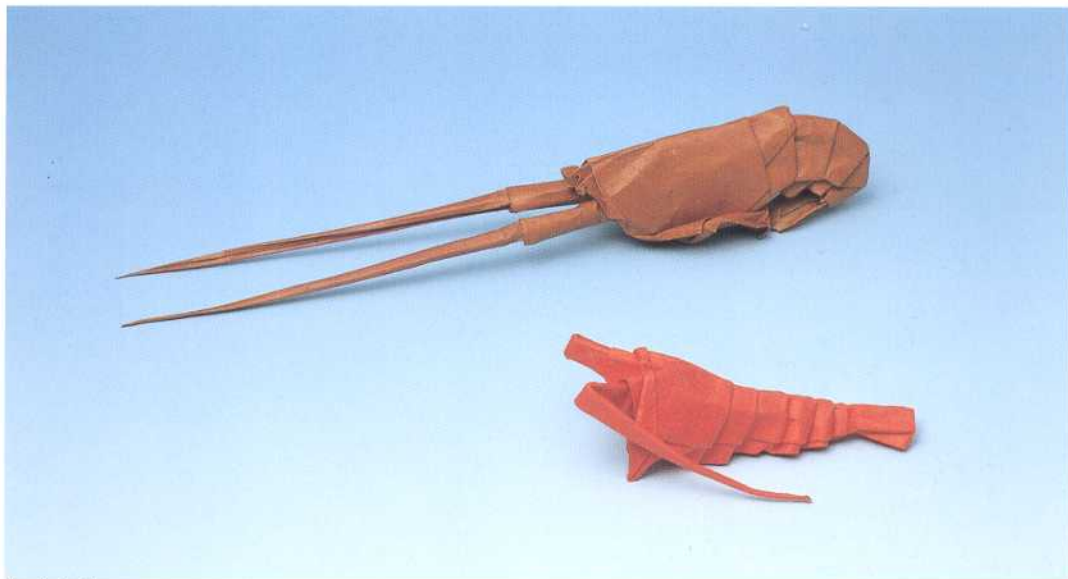


マンタ クジラ ジュゴン イルカ





タツノオトシゴ



いせえび  
伊勢海老



かに  
蟹



ハマグリ サザエ



ペンギン



しろくま  
白熊









カブトムシ



クワガタムシ



せみ  
蝉





スカラベ (ふんころがし)



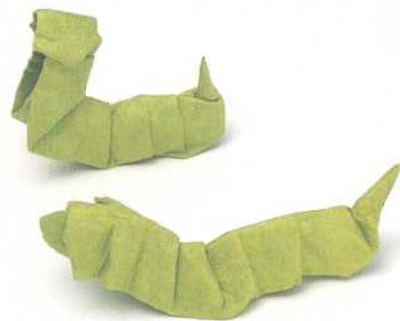
おと ぶみ  
落とし文



カマキリ

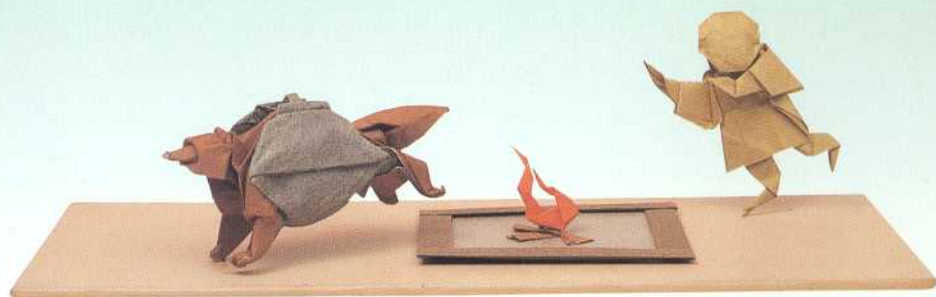


あり  
蟻



あおむし  
青虫

# 子どもたちへのメッセージ







はる  
春











しょうがつ  
1 月 お正月





ひなまつ  
3月 雛祭り

たんご せつく  
5月 端午の節句





7月 <sup>たなばた</sup>七夕

9月 <sup>つきみ</sup>お月見





12月 クリスマス



はなき じい  
花咲か爺



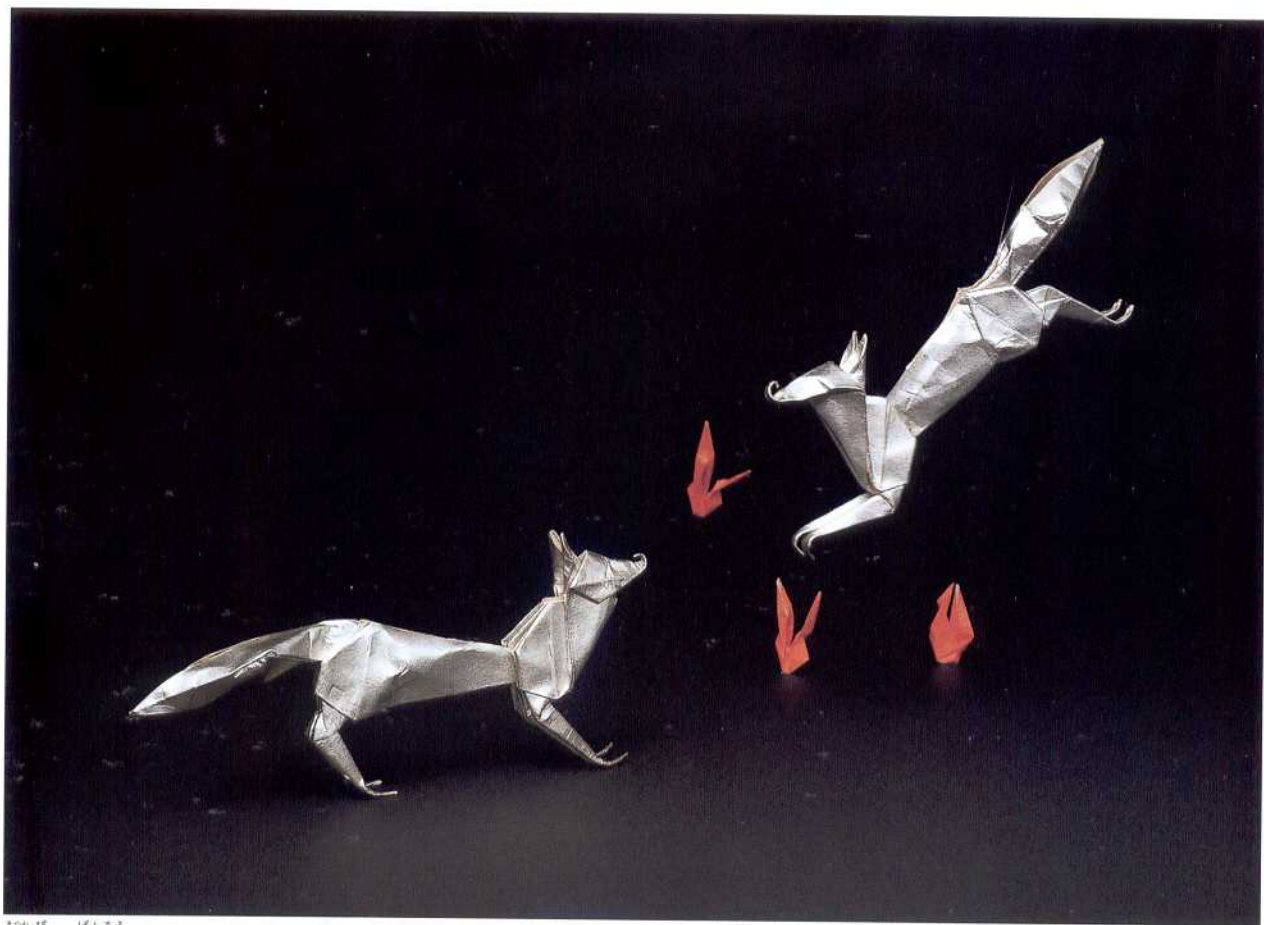


ジャックと豆の木

ピノッキオの冒険







きつね げんそう  
狐火の幻想



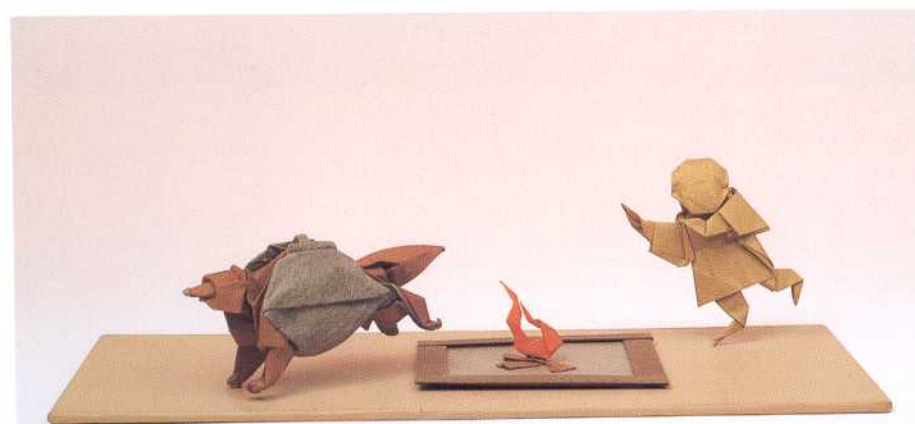
キャピトルの狼 おおかみ



した  
舌きりすずめ



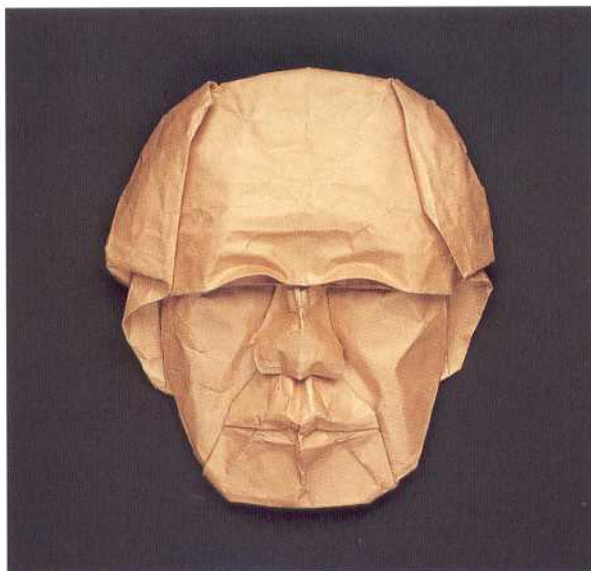
おおかみ  
ピーターと狼





せいしん せ かい とびら  
精神世界への扉

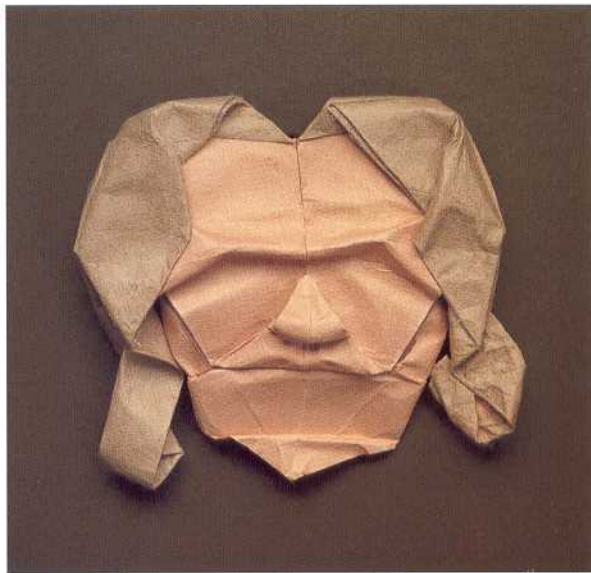




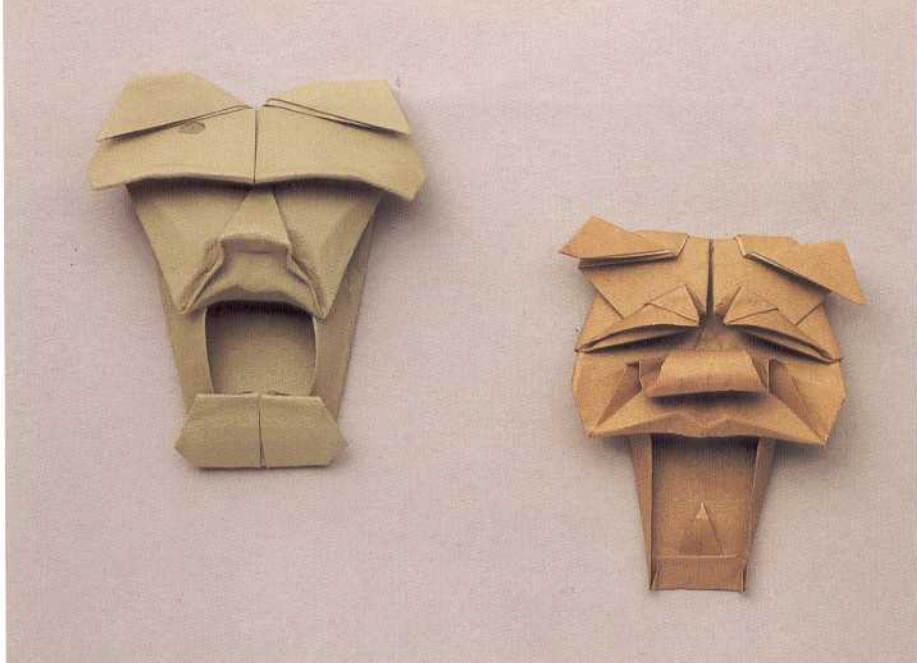
じ が ぞう  
自画像



げん じん  
原 人



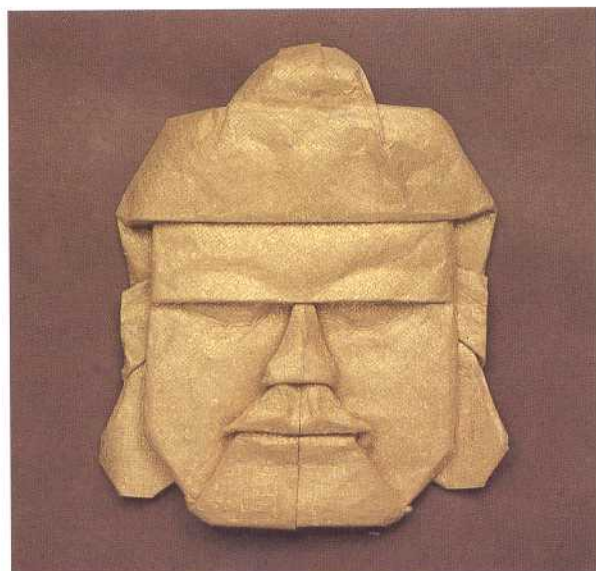
こ だ い ひ と  
古 代 の 人



あくびとくしゃみ

いた  
痛い・かゆい





ぶつ めん  
仏面



おんにやめん  
般若面



ナイト





めい ぞう  
瞑 想—平和の祈り

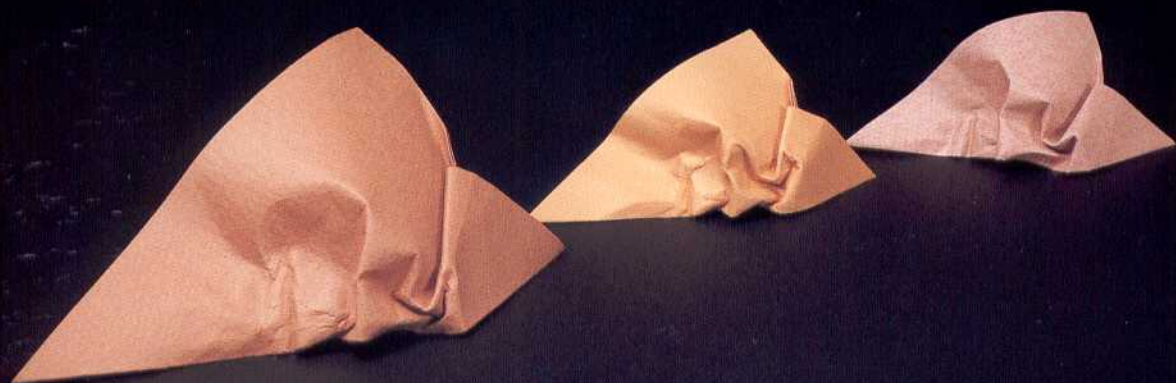


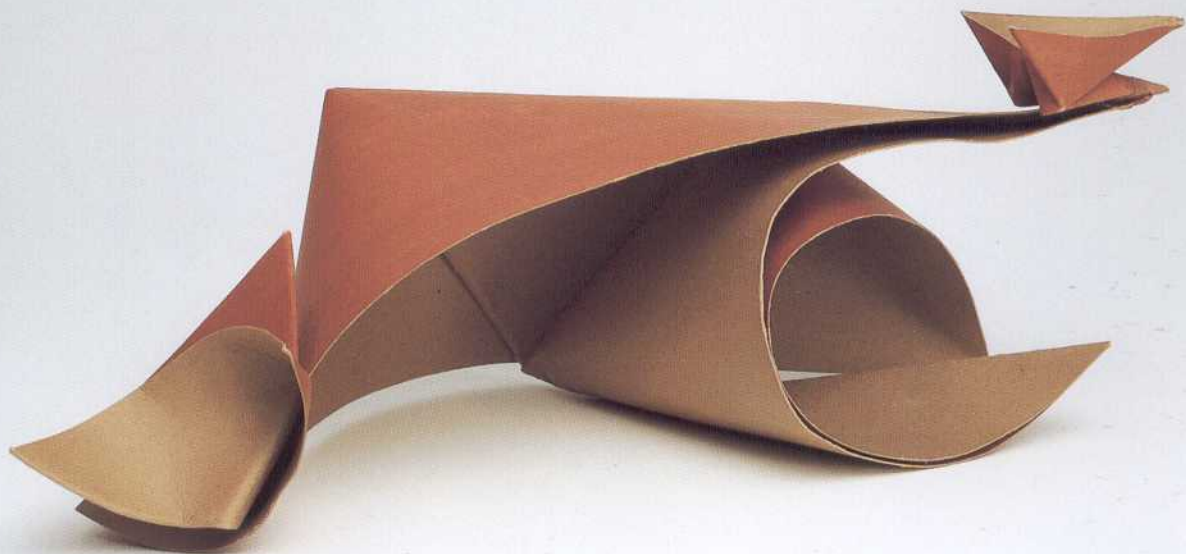


たいそう  
体操



まい  
舞





わら ははぎつめ  
笑いこけた母狐



じゆしんぐよう  
捨身供養



# 折り方

## 【折り方の記号】

----- 山 線

----- 谷 線

— 3 — 数字の  
順に折る

→ 表へ折る

→ 裏へ折る

← → 矢印の方向が縦紙

○ ↺ 裏返す

⇒ 引き出す・  
押し込む

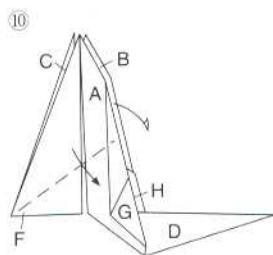
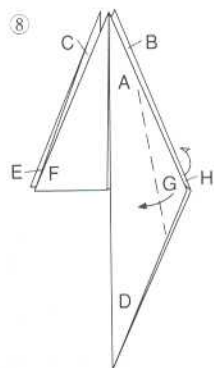
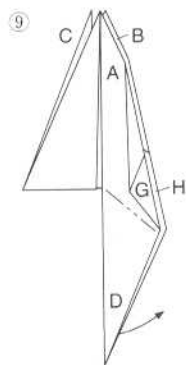
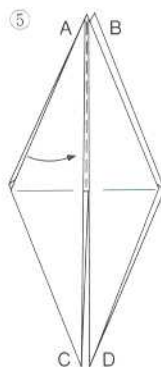
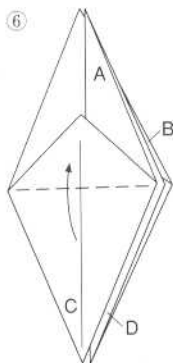
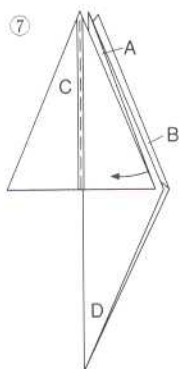
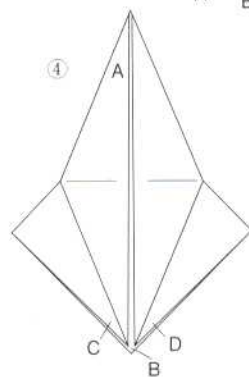
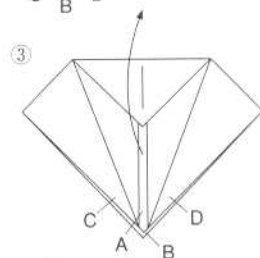
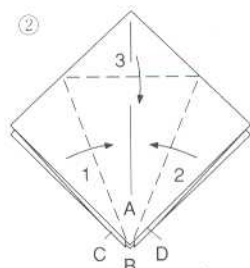
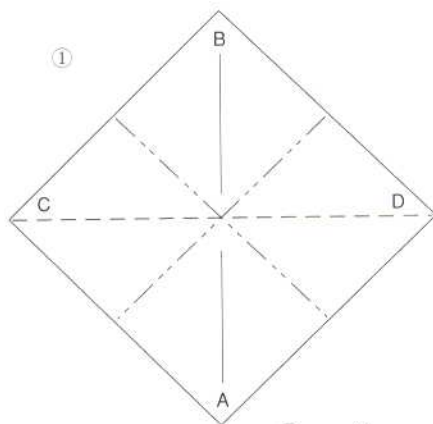
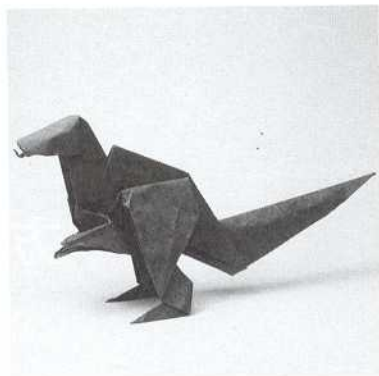
→ 図を拡大

○○○ 巻き折り

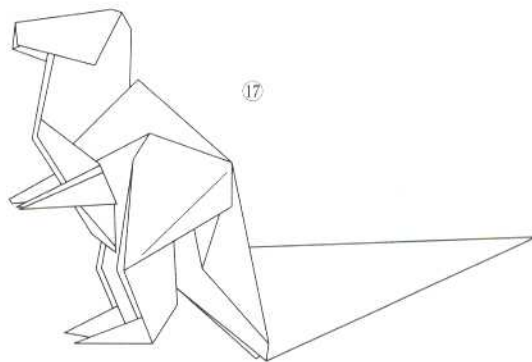
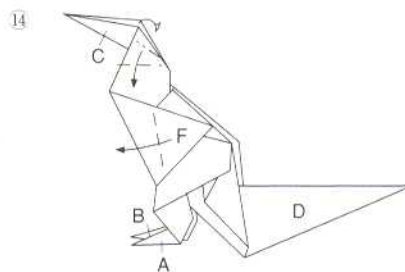
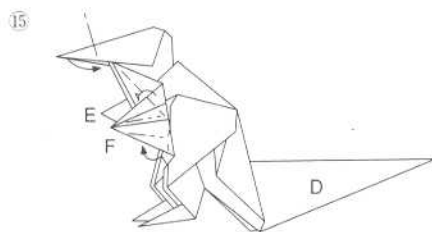
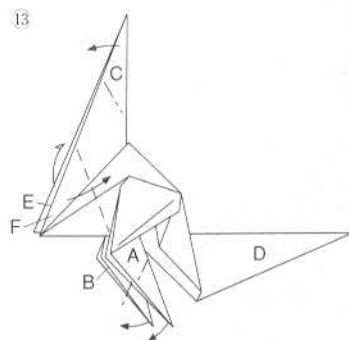
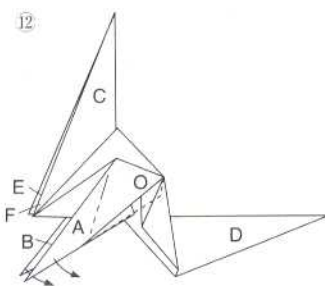
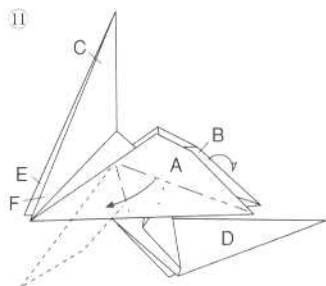
~~~~~ 軟かく  
曲げる

----- 予備線・透視線

----- 中心線



- ① 正方形の紙に山線と谷線に折り目をつけて②のようにする。
- ② 番号の順に折る。
- ③ Aを開き出して④のようにする。
- ④ BをAと同様に折る。
- ⑤⑥⑦ Cを折る。
- ⑧ Gを前にHを裏へ折る。
- ⑨ DをGHの間へ折る。
- ⑩ Aを前にBを裏へ折る。



⑪山線と谷線でAを点線へ折り、Bも裏側へ折る。

⑫○印の内側から点線へ引き出してから、AとBを折る。

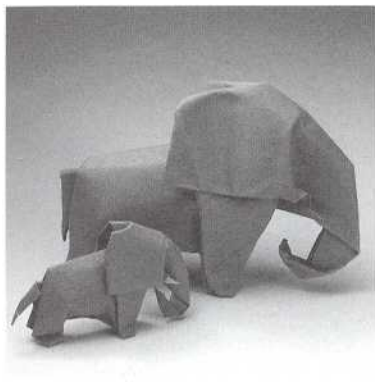
⑬それぞれ矢印に折る。

⑭Fと裏のEを折り返し、Cを折りかぶせる。

⑮⑯EとFを細く折って前足をつくり、首をそれぞれ折り、口の先を折り込む。

⑰出来上がり。写真は口のところを内側から折り返したもの。

出来上がり



①正方形の紙の対角線 A B に折り目をつけ、それぞれの切り口を合せて谷線に折り目をつけてから、C と D をつまんで折りさげる。

②C と D を点線へ折る。

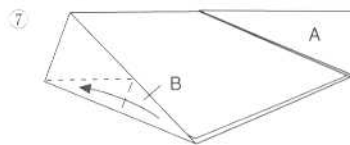
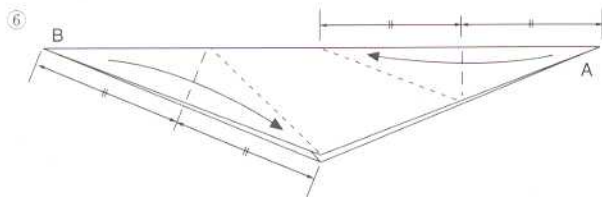
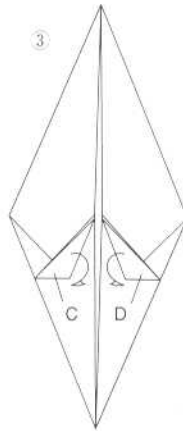
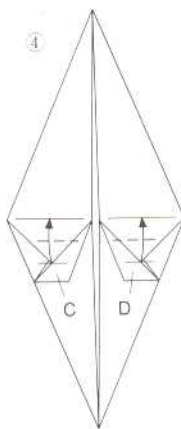
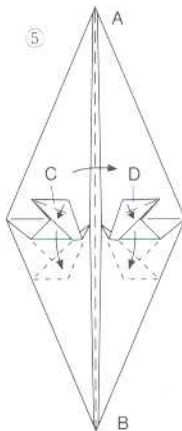
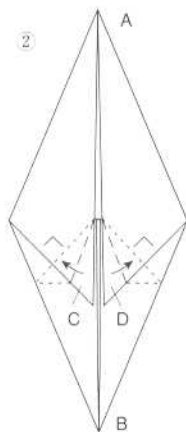
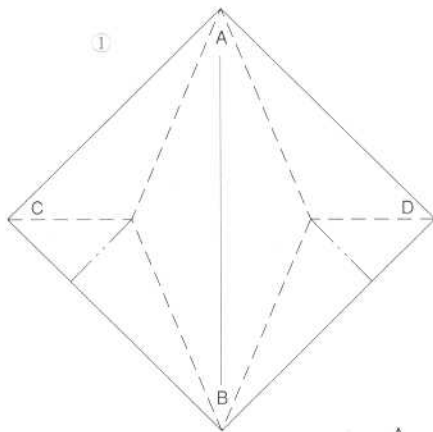
③C と D の袋の部分をはらげて裏返す。

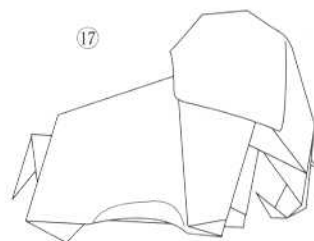
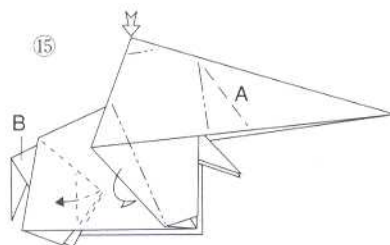
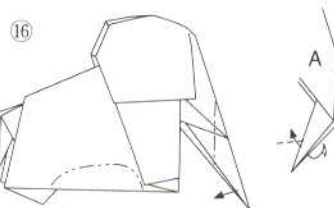
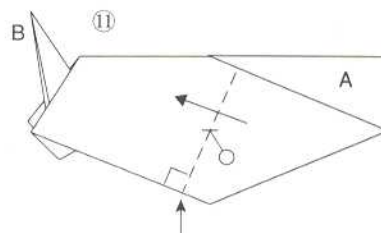
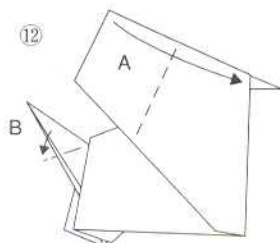
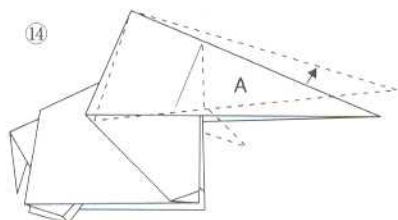
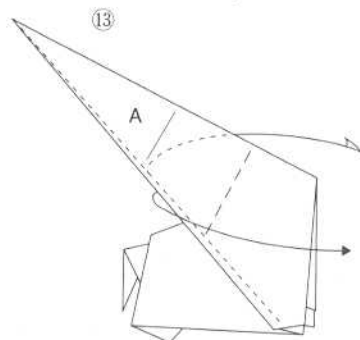
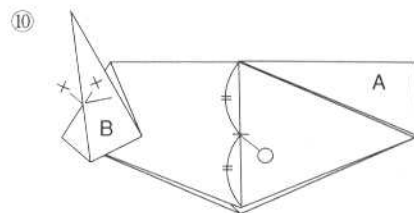
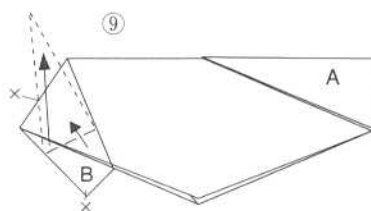
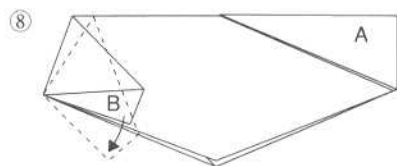
④矢印に折る。

⑤C と D を細く折ってから点線へもどし、中心から二つに折る。

⑥A と B を折る。

⑦B を折る。





⑧左下のカドを支点にしてBを点線へずらす。

⑨Bの先を点線へ折り出して×印を合わせる。

⑩Bをいったんひろげて、それぞれの折り目の位置から間へ折り込む。

⑪下の矢印のところを直角にして、○印の中心点に交わるところで折る。

⑫Bを間へ折る。Aの上のカドとカドを合せて折り目をつけてからひろげて⑬のようにしてから折り返す。

⑬Aを点線へずらして折り、中からキバを引き出す。

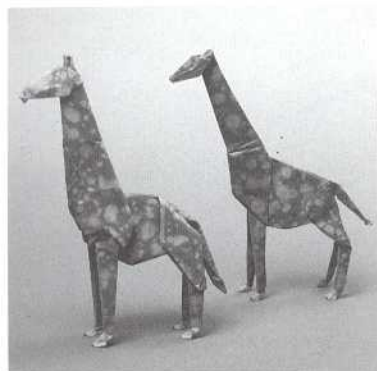
⑭矢印にそれぞれ折って、Aをつまみキバの間へ折りさげる。

⑮胴を山線に外からつまんで袋状にととのえ、鼻は部分図のように折る。

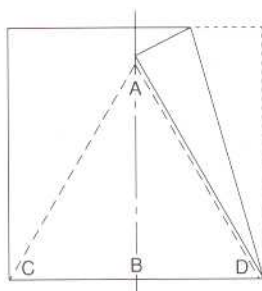
⑯出来上がり。

出来上がり

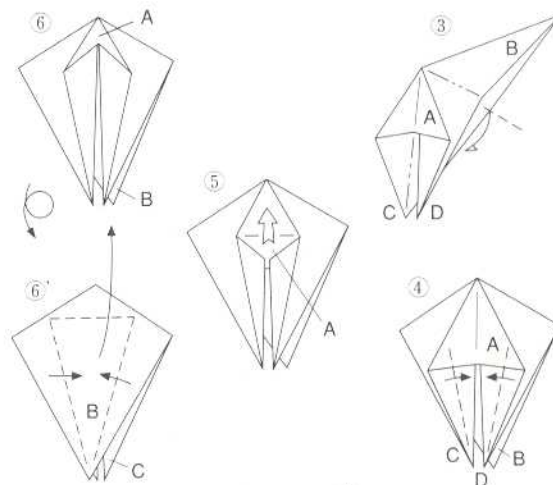
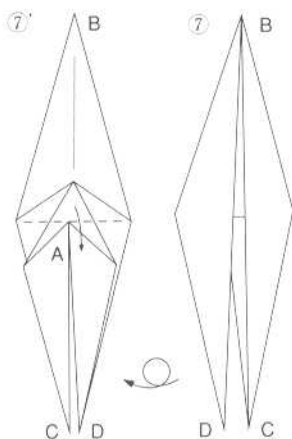
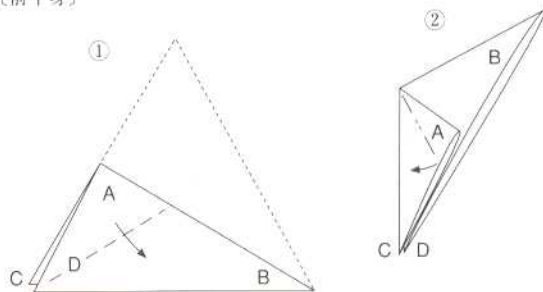




〔正三角形の紙の作り方〕



〔前半身〕



正三角形の紙2枚で前半身と後半身を折って作る。⑥までは同じ折り方。

〈前半身〉

①から⑥まで折って裏返す。

⑥' Bを谷線の折り目をつけてから⑦のように折る。

⑦裏返す。

⑦' 矢印に折り下げる。

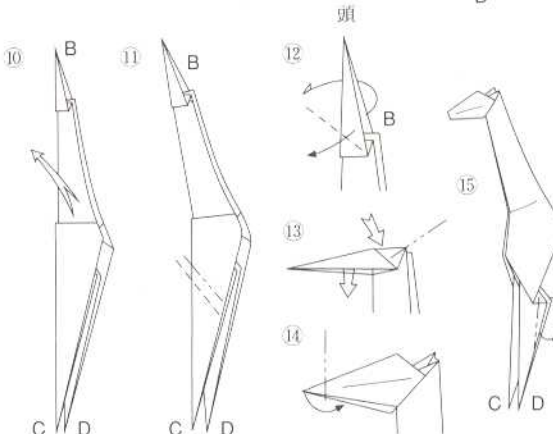
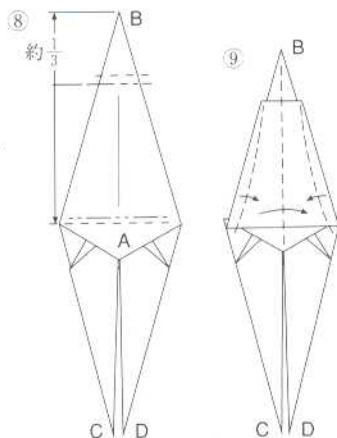
⑧それぞれ段をつける。

⑨ Bの左右を細く折り、中心から折る。

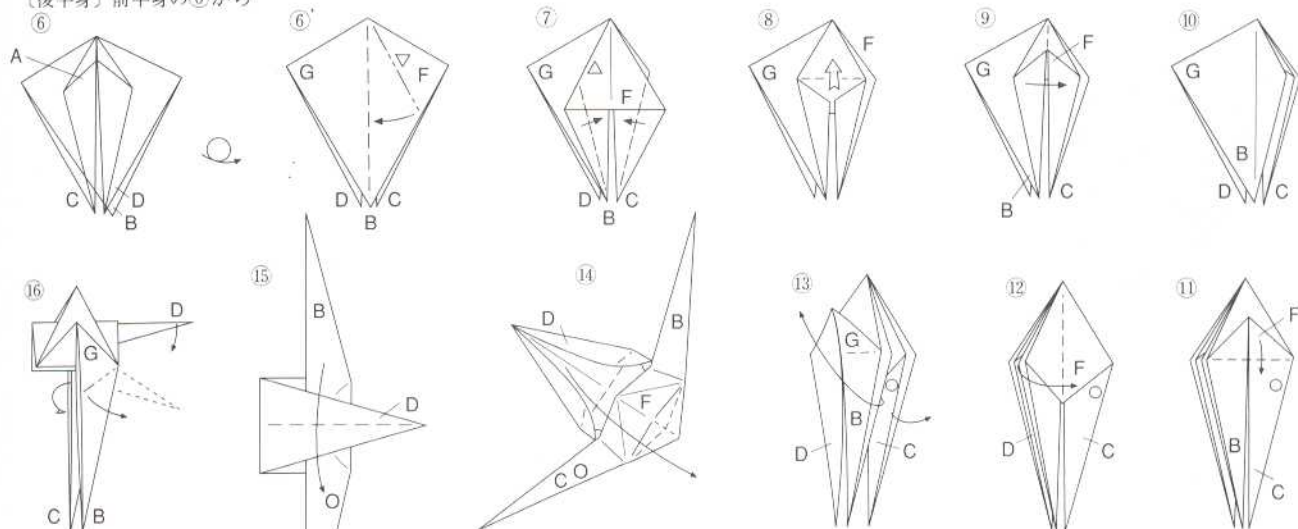
⑩ 矢印のように引き出し、胸の折り目を斜めに折りかえる。

⑪ Bを⑫⑬⑭のように折って頭をつくり、CとDを折る。

⑮ CとDをそれぞれ間へ細く折り込み、足の折り方で折る。



〔後半身〕前半身の⑥から



〈後半身〉

⑥から⑪まで折る。

⑪ F を折り下げる。

⑫⑬ B と C を矢印に引っぱって⑭のようにしながら D を矢印に B と C の間へ折って平らにする。

⑮谷線から二つに折る。

⑯ G B を山線で折り開き裏側も同様に折り、D を点線の位置へ引き下げる。

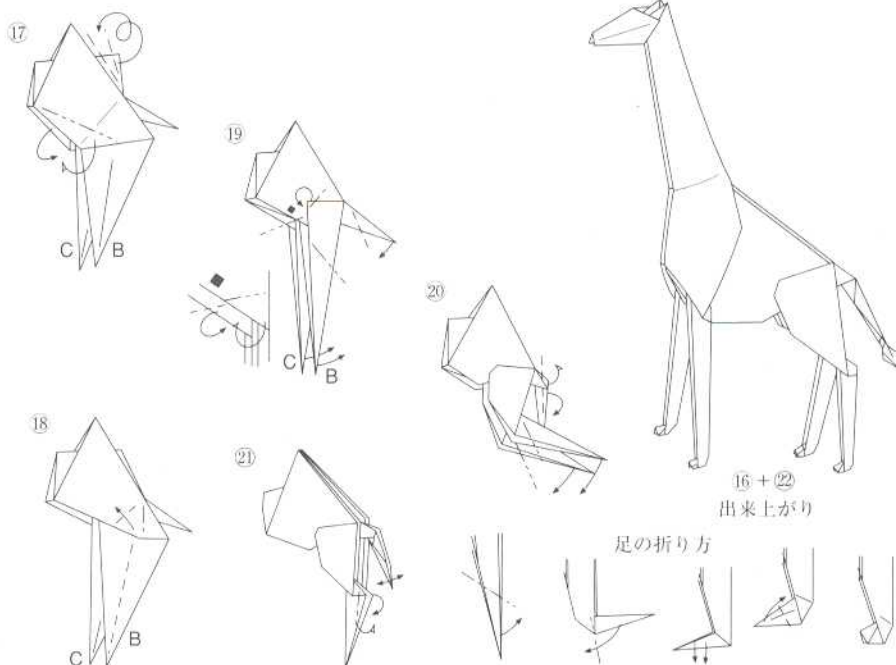
⑰⑱それぞれ矢印に折る。

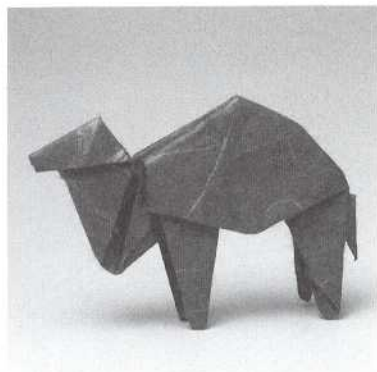
⑲⑳ものつけねを部分図のように折り、脚と尾を折る。

㉑尾の先をひろげ、脚を細く折り込み、足の折り方でととのえる。

前半身⑯と後半身㉑を組み合わせる。

⑯+㉑出来上がり。





正方形の紙を①②③の順に折る。

④Dを $\frac{1}{3}$ のところから⑤のように折りひろげ、Cも同様に折る。

⑤矢印に折ってC Dを細くする。

⑥C Dを⑦のようにもどす。

⑦谷線で点線へ折る。

⑧CとDを⑥の形にもどす。

⑨Bを折ってから二つに折る。

⑩AとBを間へ折る。

⑪Eを山線の位置から間へ折り込み、F Gを山線と谷線で折って○印の部分の中へ入れる。

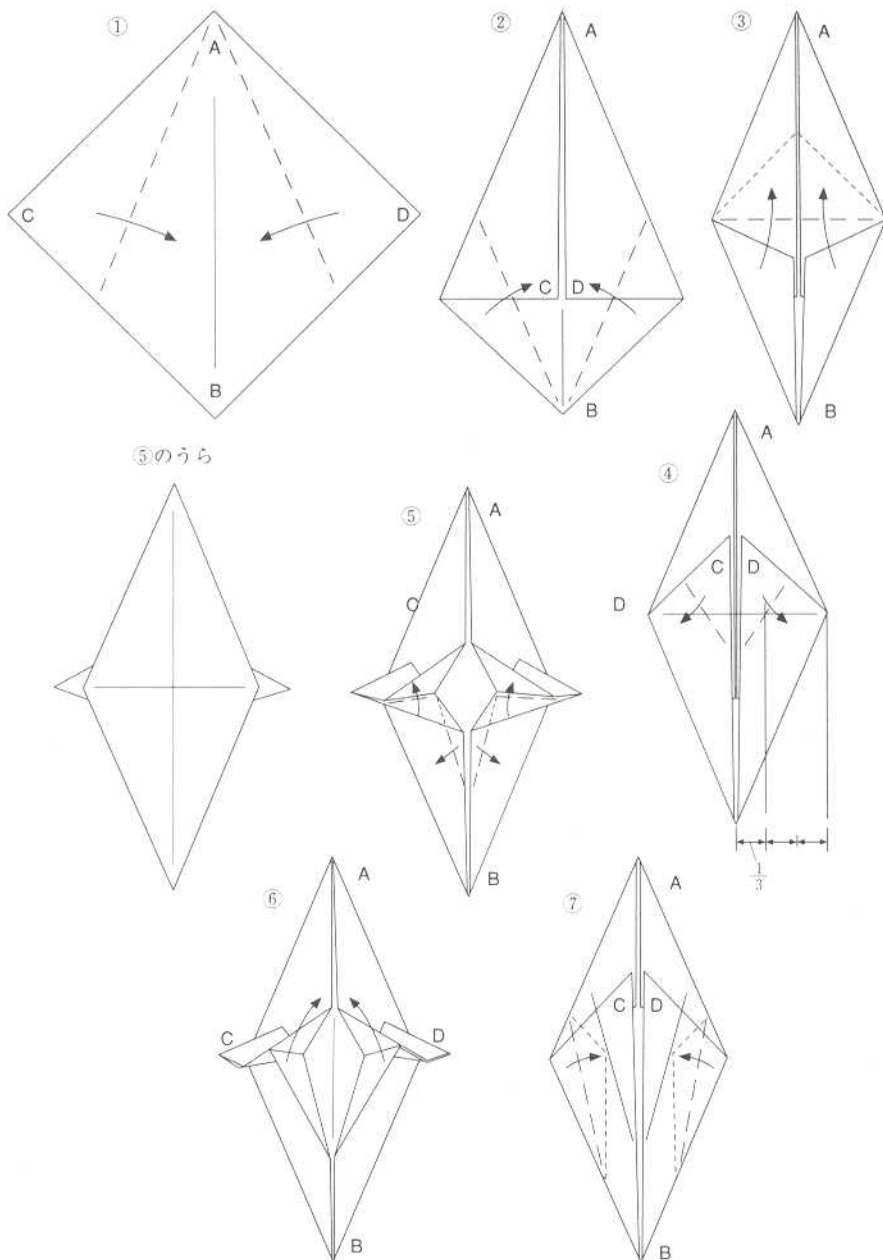
⑫Aを点線の内側で折り上げ、○印の部分の山線と谷線で折り、Eを折り込む。

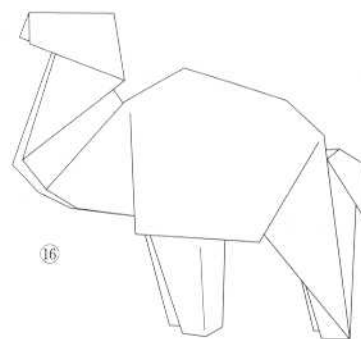
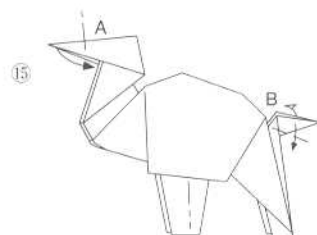
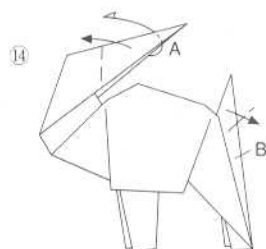
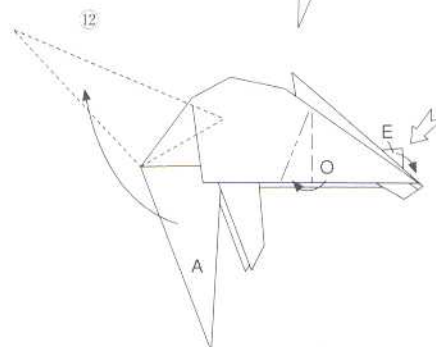
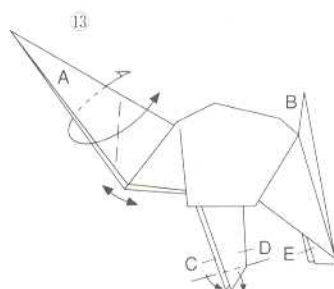
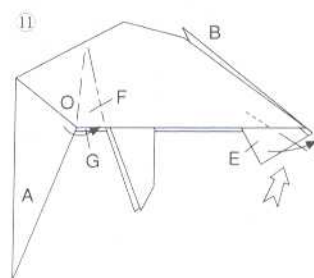
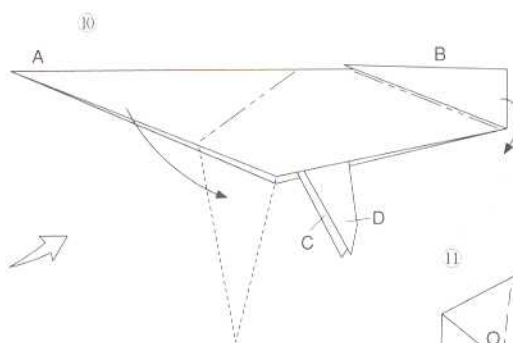
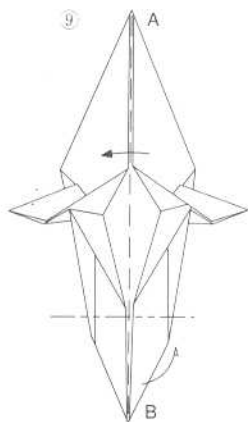
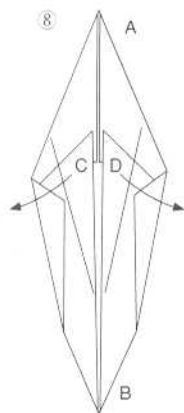
⑬Aを谷線で折るかぶせ、胸のところを矢印に引っぱって丸みをつけ、足の先を折る。

⑭Aを開いて折り返し、Bを折る。

⑮Aを折って頭をつくり、Bを折って尾にする。前足に山線の折り目をつけ、全体の形をととのえる。

⑯出来上がり。





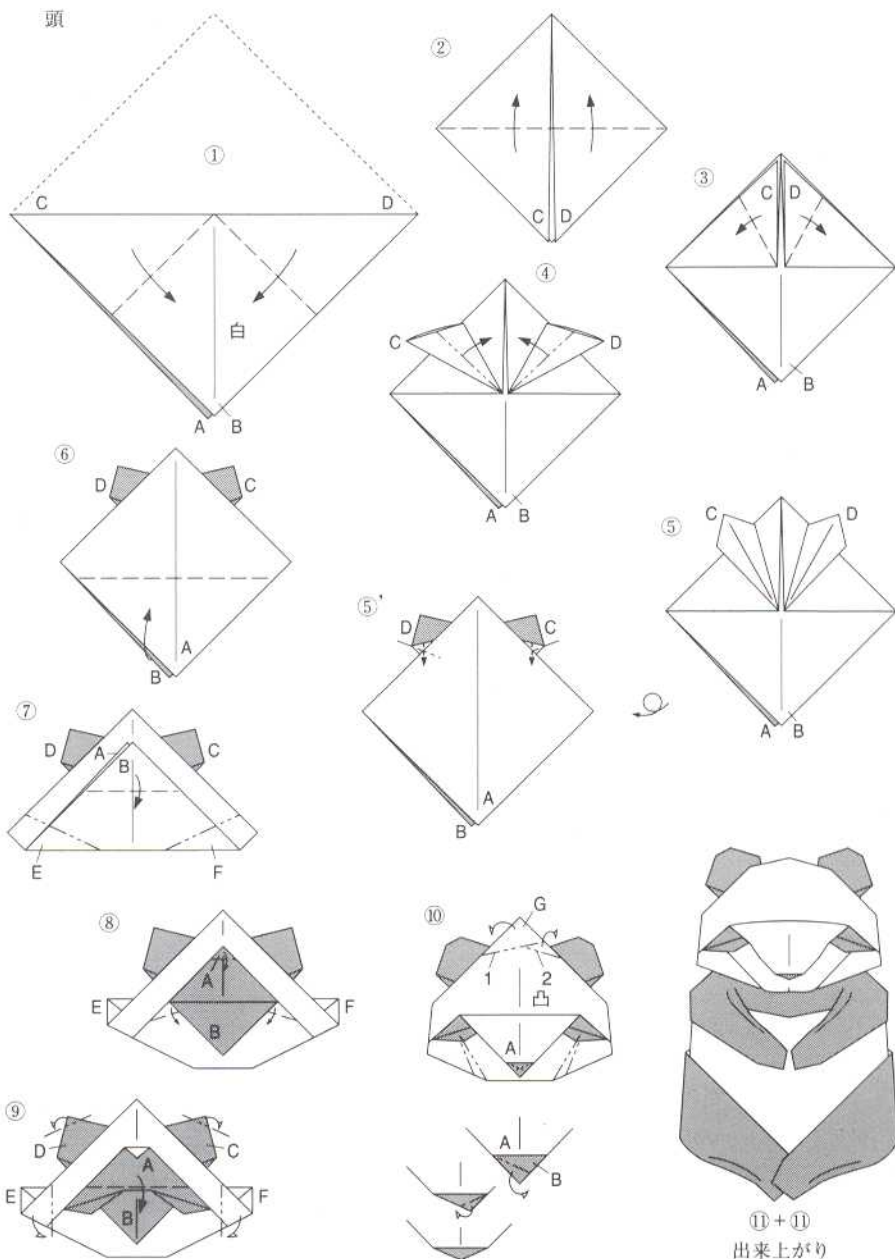
出来上がり



裏の白い黒の紙二枚で、頭とからだをそれぞれ作り、組み合わせる。

〈頭〉①正方形の紙を白を外に出して三角に折る。②③矢印に折る。④CとDを開いて平らにつぶす。⑤裏返す。⑤'CとDの白く見える部分を間へ折り込む。⑥AとBを重ねたまま折り上げる。⑦出来上がりの顔の輪郭と目の位置を考えながら、Bを折り下げ、EとFを裏へ折る。⑧目の形を考えてBの左右のカドを折り、Aの先を鼻の大きさに折り返す。⑨AをBの上に重ねて目を作り、CとD、EとFを山線から裏へ折る。⑩Gを1、2の順に折り、鼻の先の黒いところを折って小さくし、目の下からあごにかけて斜めに山線と谷線で段をつけてから、顔を皿状にそらして形をととのえ、目の上のふちを少し引き起こして曲線にする。⑪出来上り。

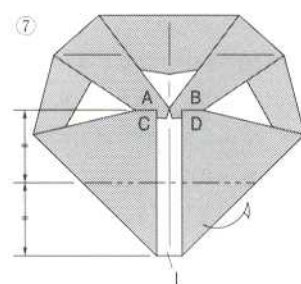
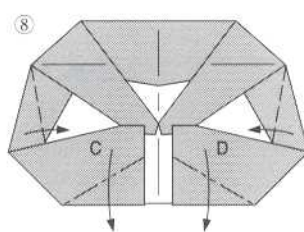
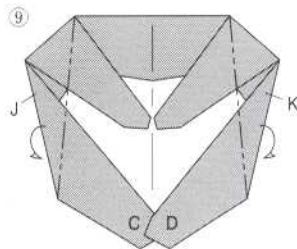
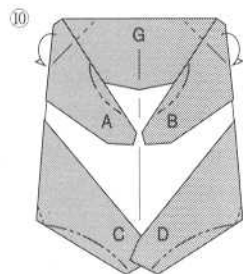
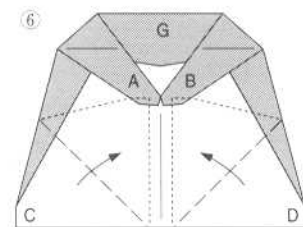
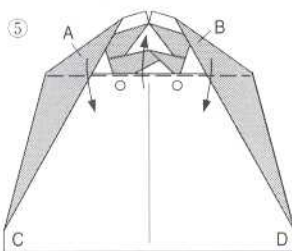
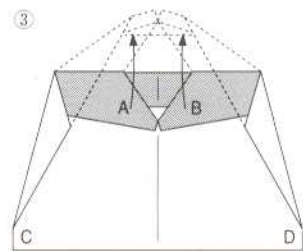
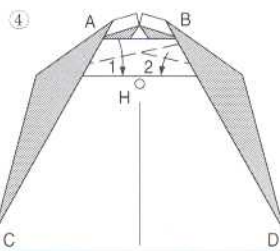
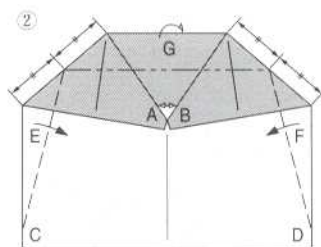
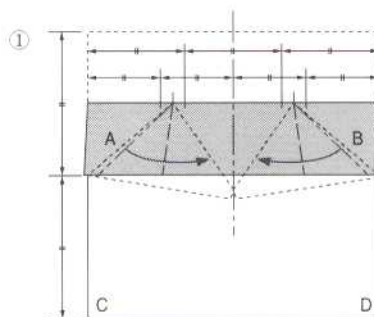
頭

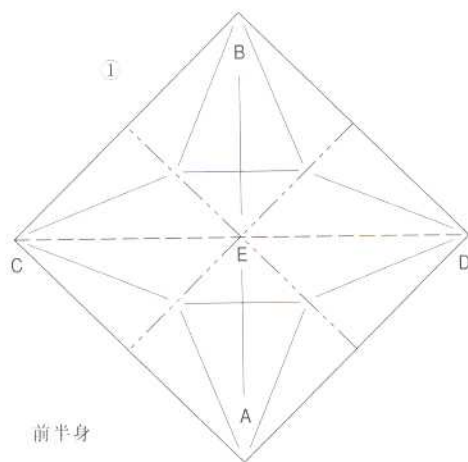
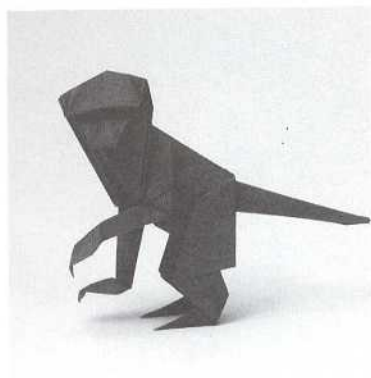


⑪+⑪  
出来上がり

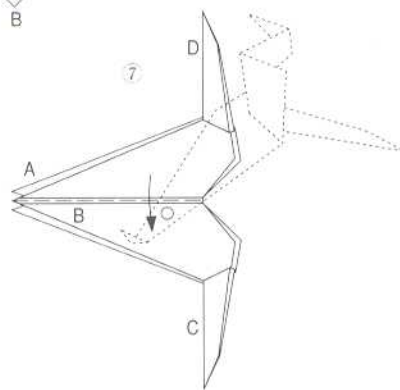
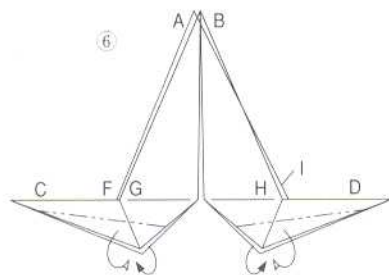
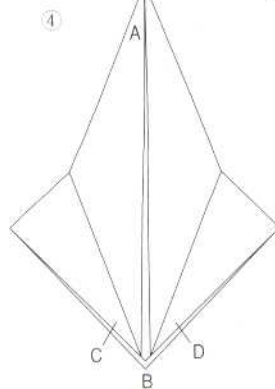
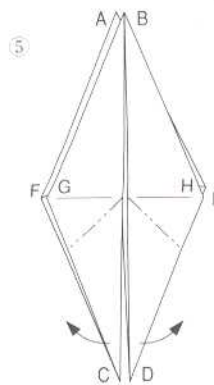
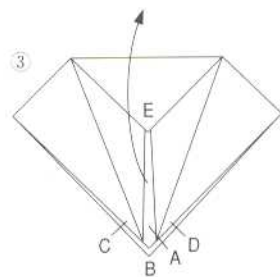
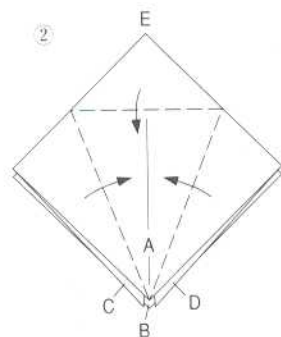


〈からだ〉正方形の紙を①のように折り、 $\frac{1}{3}$ と $\frac{1}{4}$ の間のところに印をつけ、AとBを山線谷線で矢印にずらして折る。②左右の斜めの線の半分のところに印をつけ、山線と谷線の位置を求めてEとFを前に、Gを裏へ折る。③AとBを点線へ開き出す。④Hを○印の裏側へ入れる。⑤AとBを折り下げ、裏側のGを引き起こす。⑥CとDを点線へ折る。⑦Iを裏へ折る。⑧山線と谷線でCとDを引き下げる。⑨JとKを裏へ折る。⑩上のカドを裏へ折ってから、AとB、CとDを山線につまみ折りにして手と足の形をととのえ、頭の出来上り⑪をGの上にかぶせる。⑪出来上り。裏のおしりの部分をつまんで、すこし引っ張り、おしつけて立たせる。





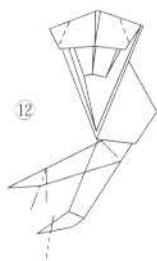
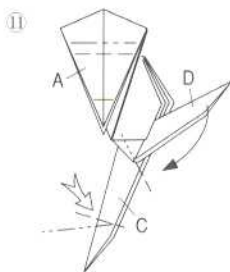
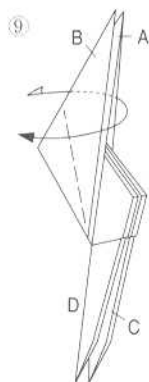
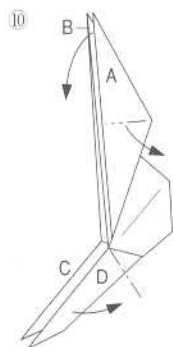
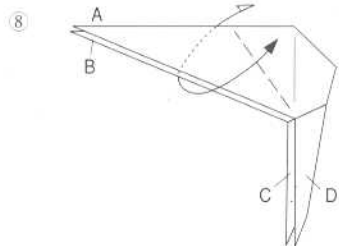
前半身



正方形の紙二枚で前半身と後半身を折って作る。

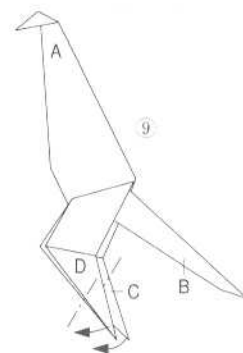
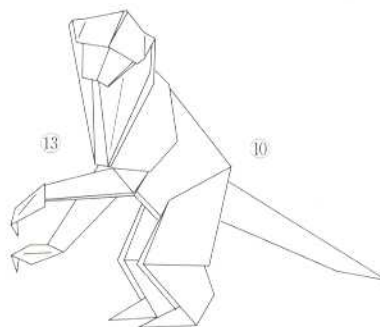
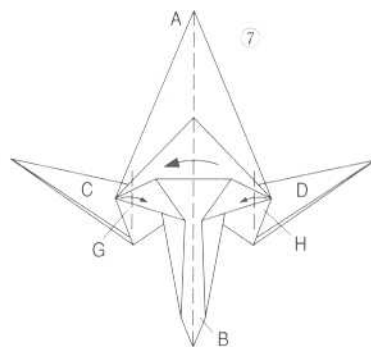
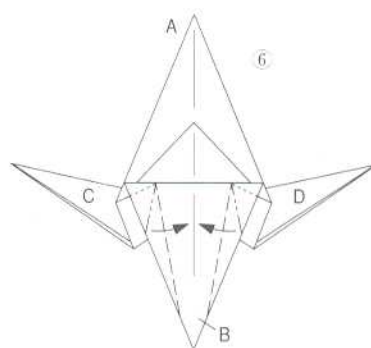
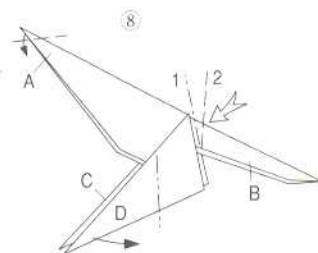
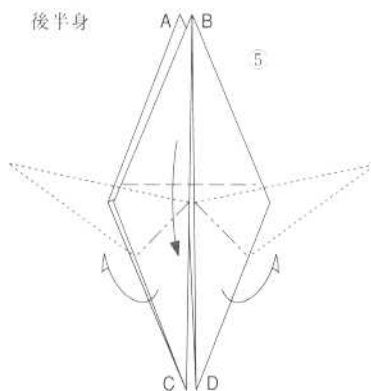
〈前半身〉①から⑤まで折る。⑤CをFGの間へ、DをHIの間へ折り上げる。⑥CとDを細く折る。⑦二つに折る。⑦の点線は後半身のつけ方。⑧ABを重ねたまま谷線の位置からひろげて折りかぶせる。⑨は⑧と同じ折り方で折る。⑩ABを重ねたまま⑪のようにする。⑪⑫それぞれの折り線で頭と前足を折りとのえる。

〈後半身〉前半身の⑤まで折る。⑤山線の位置からCとDをそのまま裏へ折り、Bを中心より少し上から折り下げる。⑥Bを細く折る。⑦GHを中へ折ってから二つに折る。⑧⑨BをIの山線で中へ折り、2の谷線で折り返して尾を作る。Aの先を小さく折り、CDを矢印にそれぞれ折って足を作る。

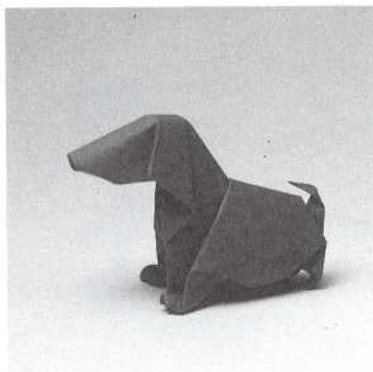


〈組み合わせ方〉前半身の肩と胸の部分を⑦のように広げ、後半身の⑨を○印の内側へ差し込み、元の折り目で折りとののえて、⑬+⑩出来上がり。

後半身



出来上がり

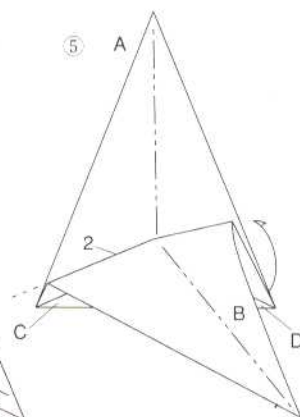
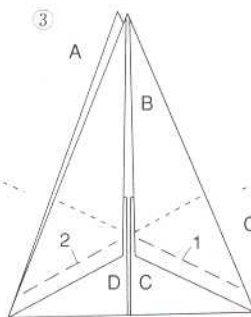
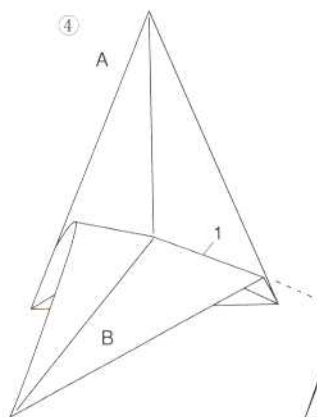
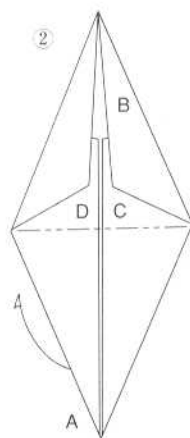
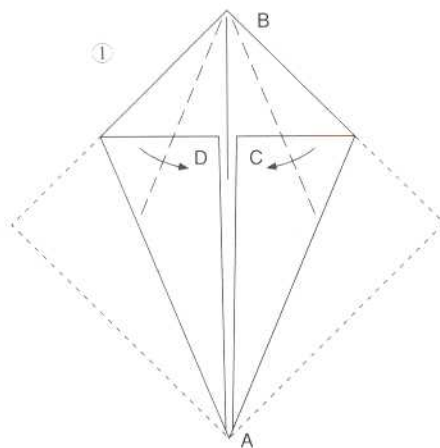


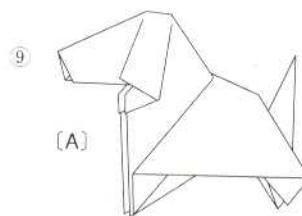
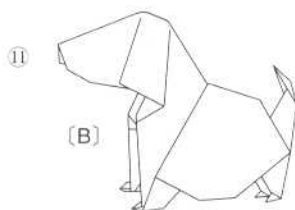
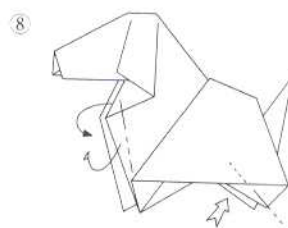
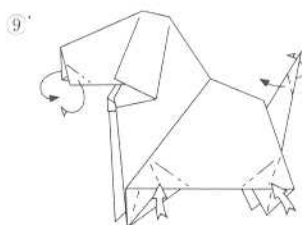
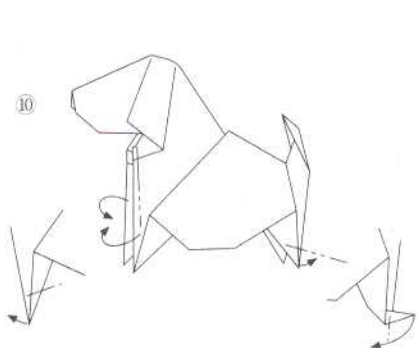
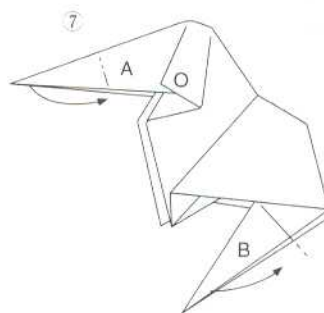
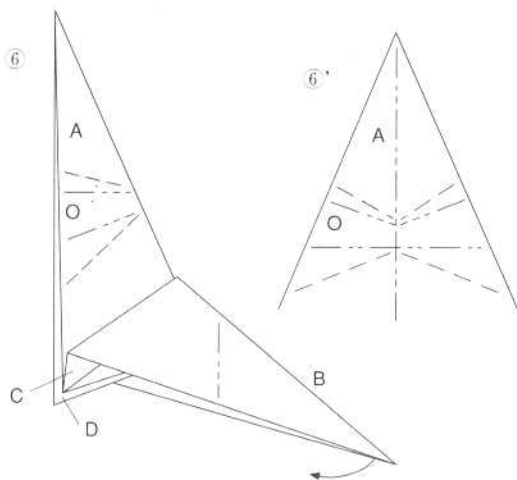
# コッカー・スパニエル [A]

- ① 正方形の紙の対角線に折り目をつけて図のように折ってから谷線を折る。
- ② AをBの裏へ折る。
- ③ Bを1の谷線で折って④。Bを2の谷線で折って⑤。
- ⑤ 山線で矢印に折って合せ⑥のようにする。
- ⑥ Aを⑥'のように山線と谷線で耳をつくる。Bを内側に折る。
- ⑦ AとBを折る。
- ⑧ 胸を間へ折り、後足を山線と点線の内側で折り込む。
- ⑨ 出来上がり。

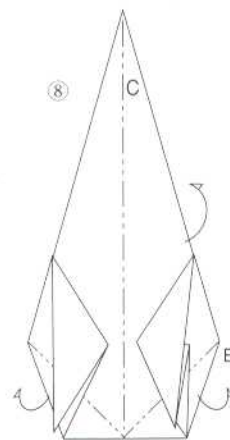
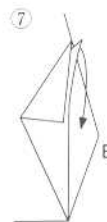
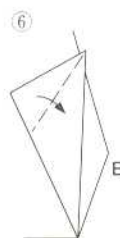
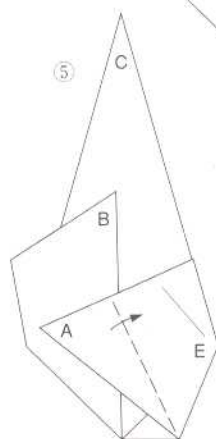
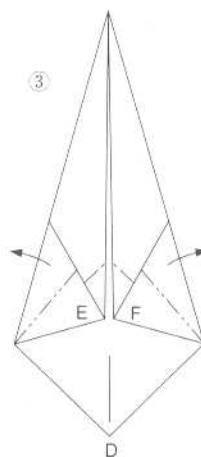
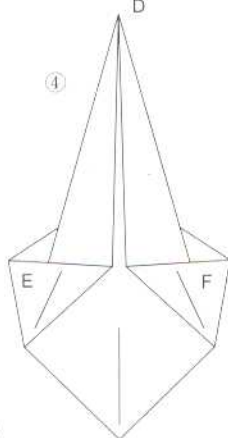
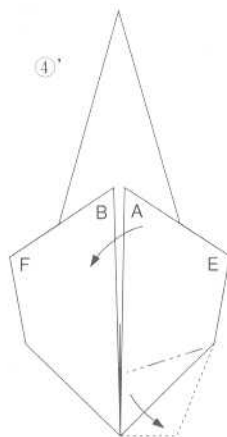
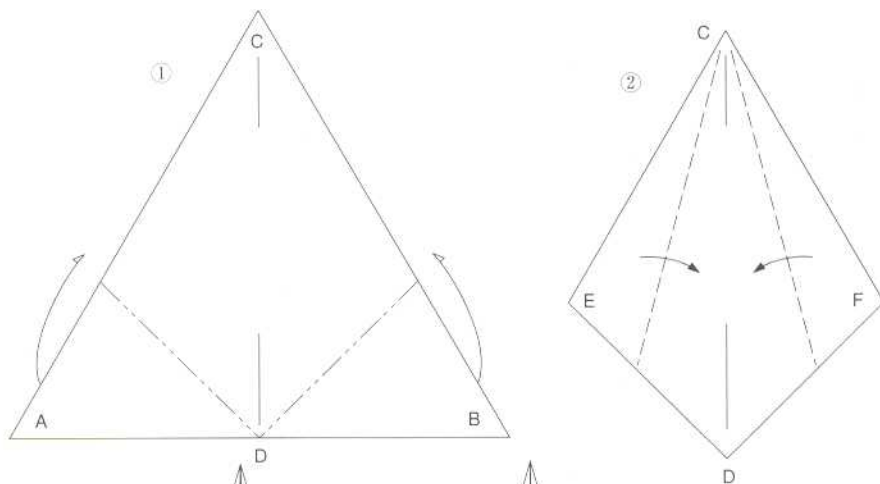
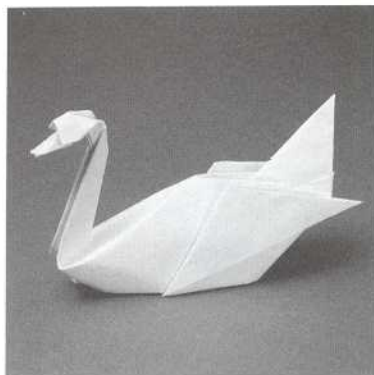
# コッカー・スパニエル [B]

- ⑨ [A]の出来上がりから折る。それぞれ矢印に折る。
- ⑩ 胸を折ってから前足と後足を折って形をととのえる。
- ⑪ 出来上がり。









正三角形の紙を用いる。

① A B を山線で裏へ折る。

② 谷線を折る。

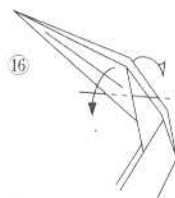
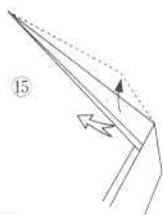
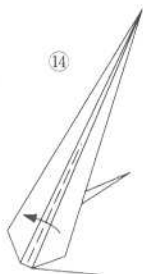
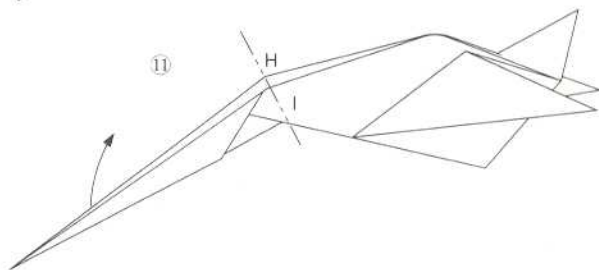
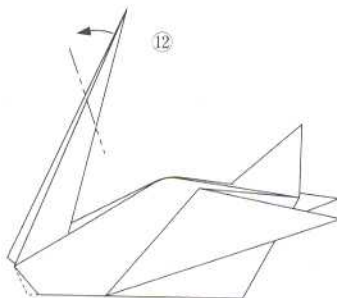
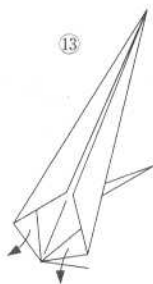
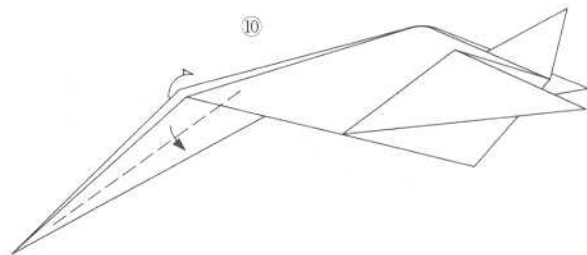
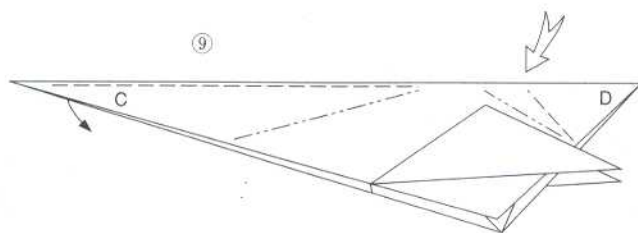
③ E F をずらして折る。

④ 裏返す。

④' E のカドを支点として矢印にずらす。

⑤⑥⑦ A を折って羽をつくる。B も A と同様に折る。

⑧ 左右のカドを折ってから二つに折る。



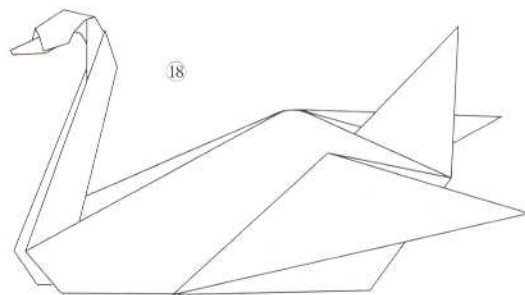
⑨ Cを斜めに折り込み、Dを山線の位置から折り込んで谷線で折り返し尾をつくる。

⑩⑪細く折ってから首を折りあげる。

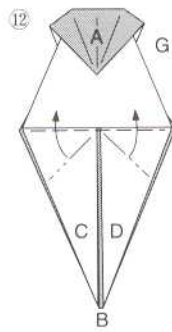
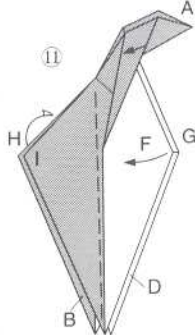
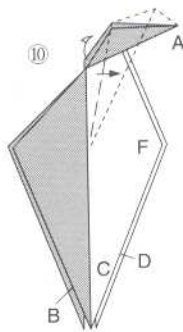
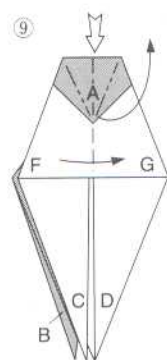
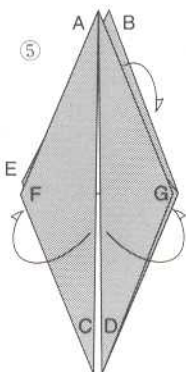
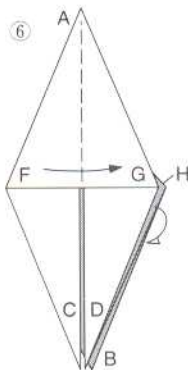
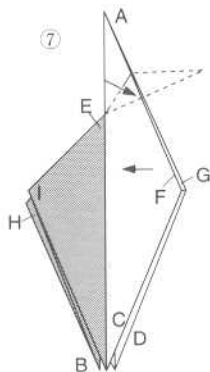
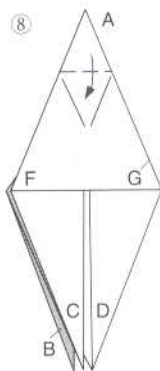
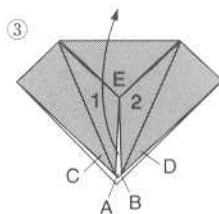
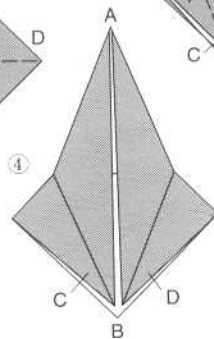
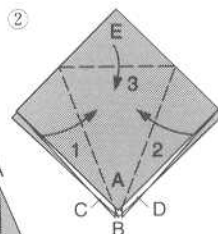
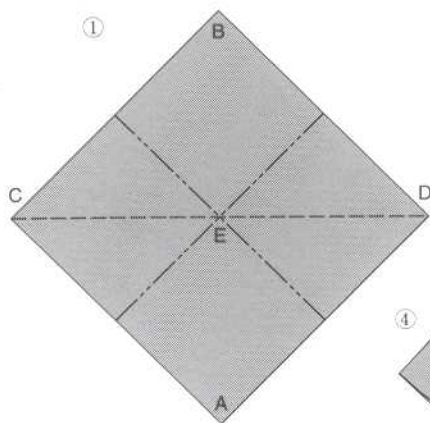
⑫⑬⑭中から引きだして丸みをだすが、この部分の構造がよくわかったら、胸のカドは写真のように表に折り目をださないで仕上げる。

⑮⑯⑰頭をつくり、くちばしを平らにつまんで白鳥の特徴を出す。からだにふくらみをもたせて形をととのえる。

⑱出来上がり。



出来上がり



裏の白い黒の紙を用いる。

せきれい [A]

①正方形の紙を山線と谷線で②のように折る。

②1 2 3の順に折り目をつける。

③Aを④のように開き出す。

④裏側のBもAと同様に折る。

⑤Bを折りさげ、F Gを広げて上側だけ裏返しにする。

⑥Fを前に、Hを裏へ返す。

⑦Aを点線へ折って⑧に示す谷線の位置をきめてからFを矢印に返す。

⑧Aを折りながら⑨のように裏側から引き出す。

⑨Fを矢印に折り、Aの先を引き出ししながら中心を押し込む。

⑩Aを点線へずらして折る。

⑪FとHを戻して平らにする。

⑫CとDを谷線を折ってから⑬のように開く。

⑬CとDを下の矢印を折ってから上の矢印を折る。

⑭中心から折ってAの先を引き出す。

⑮○印を間へ折り裏側も同じに折り、Bの先を折って1の山線から折りこむ。

⑯Aを谷線から大きく開いて折るかぶせて胸をつくり（Aの先は谷線を折って細くする）、Bを2の線で折り返す。

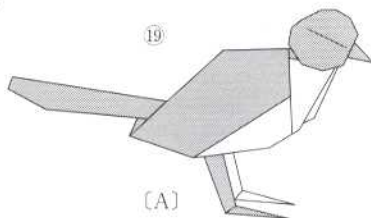
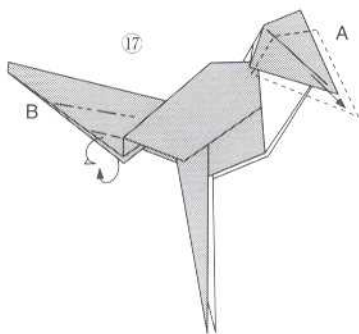
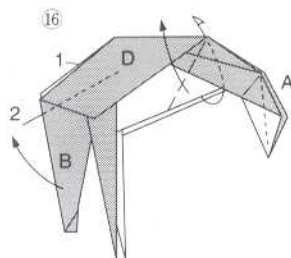
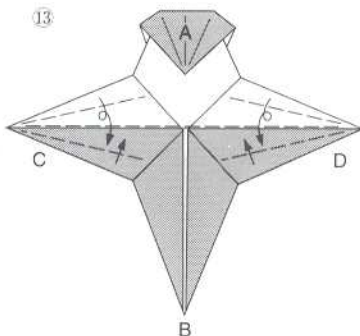
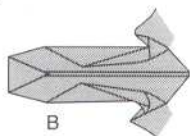
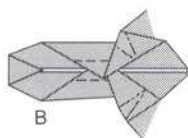
⑰Aを点線へ静かに引き出し、Bを少し平らにひろげ尾の形に折る。尾の中は部分図のように折る。

⑱腹と胸の形に折り込み、足はつけねのところに大きく押しこむように折る。頭とくちばしの形をととのえる。

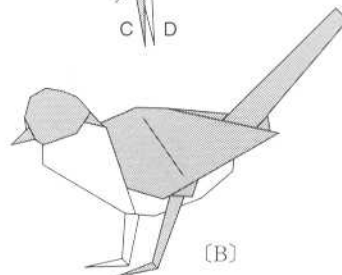
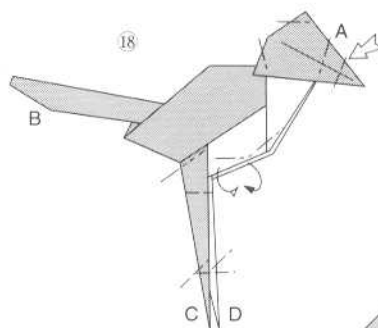
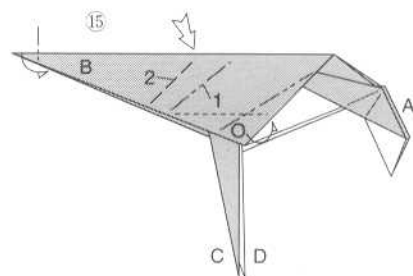
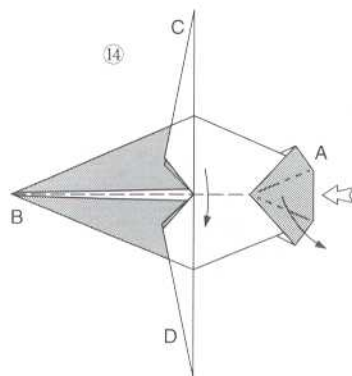
⑲出来上り。

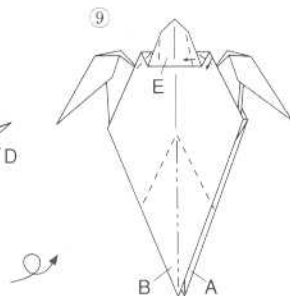
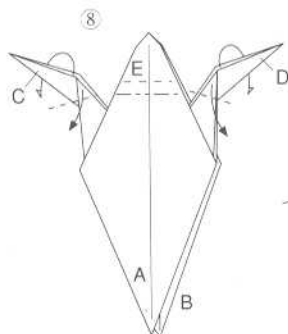
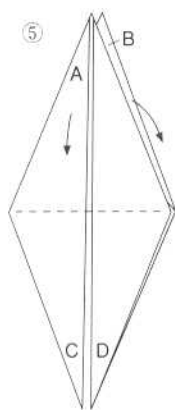
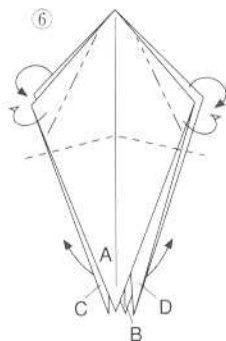
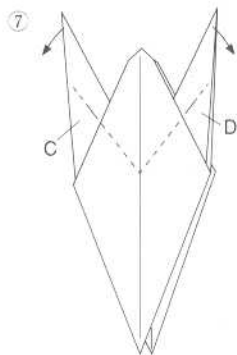
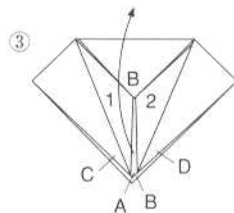
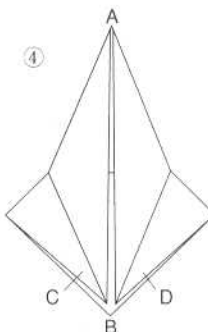
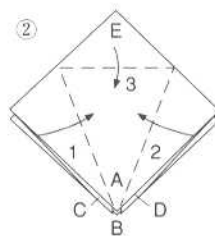
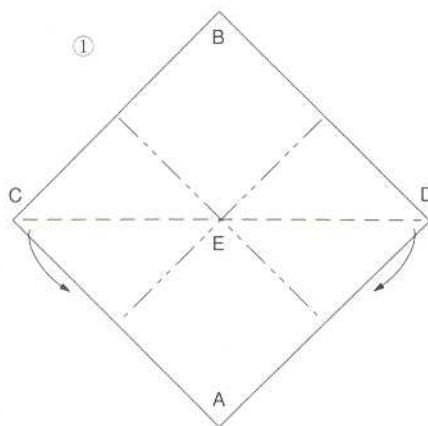
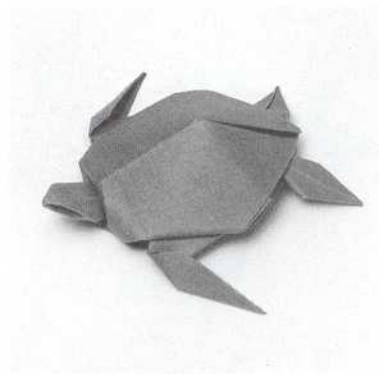
せきれい [B]

つばさの下側のへりを角度をかえて折り、足の長さや角度も尾を動かした時のリズムカルな運動を表現するように仕上げたもの。頭は⑯を折るときそのまま二つに折る。



出来上がり

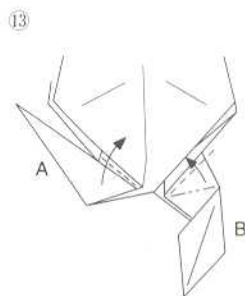
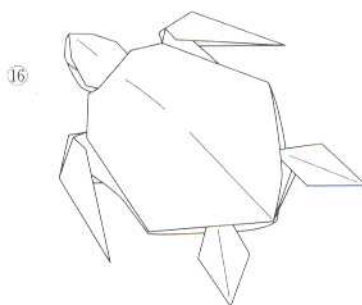
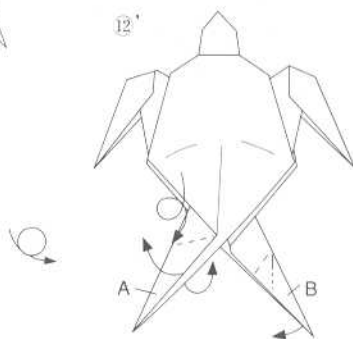
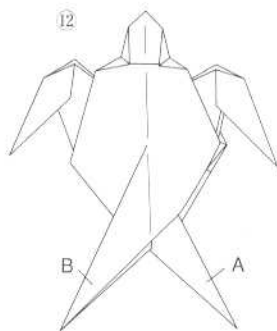
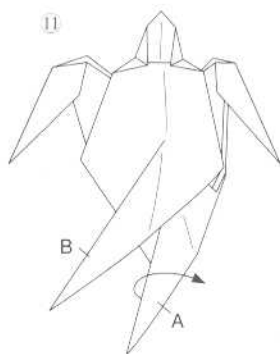
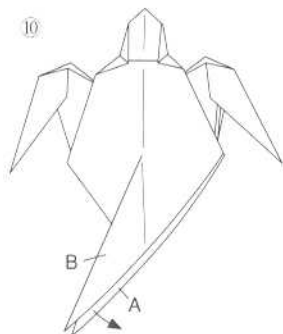




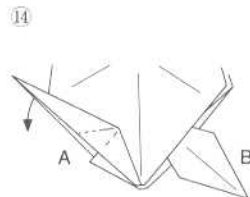
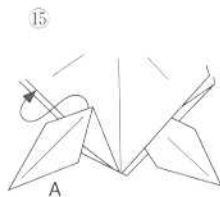
首の折り方

- ① 正方形の紙を山線と谷線で②のように折る。
- ② 1 2 3の順に折り目をつける。
- ③ Aを④のように開き出す。
- ④ 裏側のBもAと同様に折る。
- ⑤ A Bを折り下げる。
- ⑥ 左右の四つのカドを間へそれぞれ折り込み、CとDを点線の内側で折り上げる。
- ⑦ CとDを斜めに細く折り返して⑧のようにする。
- ⑧ CとDを矢印に開いて折りかぶせ、Eを山線と谷線で段をつけてから裏返す。
- ⑨ Eを部分図のように折り、A Bを重ねたまま、裏側（背の方）がふくらむように山線と谷線でつまみ上げて左へたおす。





後足の折り方



⑩ Aを引き出す。

⑪ Aを矢印にたおして皿形になっている中央部をなじませる。

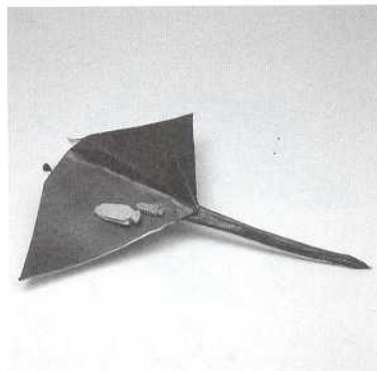
⑫裏返す。

⑫'(背がふくらんでいる形) Aを矢印にひらいて谷線の位置から折るかぶせ、Bを谷線でいちど折ってから、山線で先をひろげて⑬のBの形にする。

⑬ Aを矢印に折り、Bを山線で折ってから、谷線で甲らの間へさし込む。

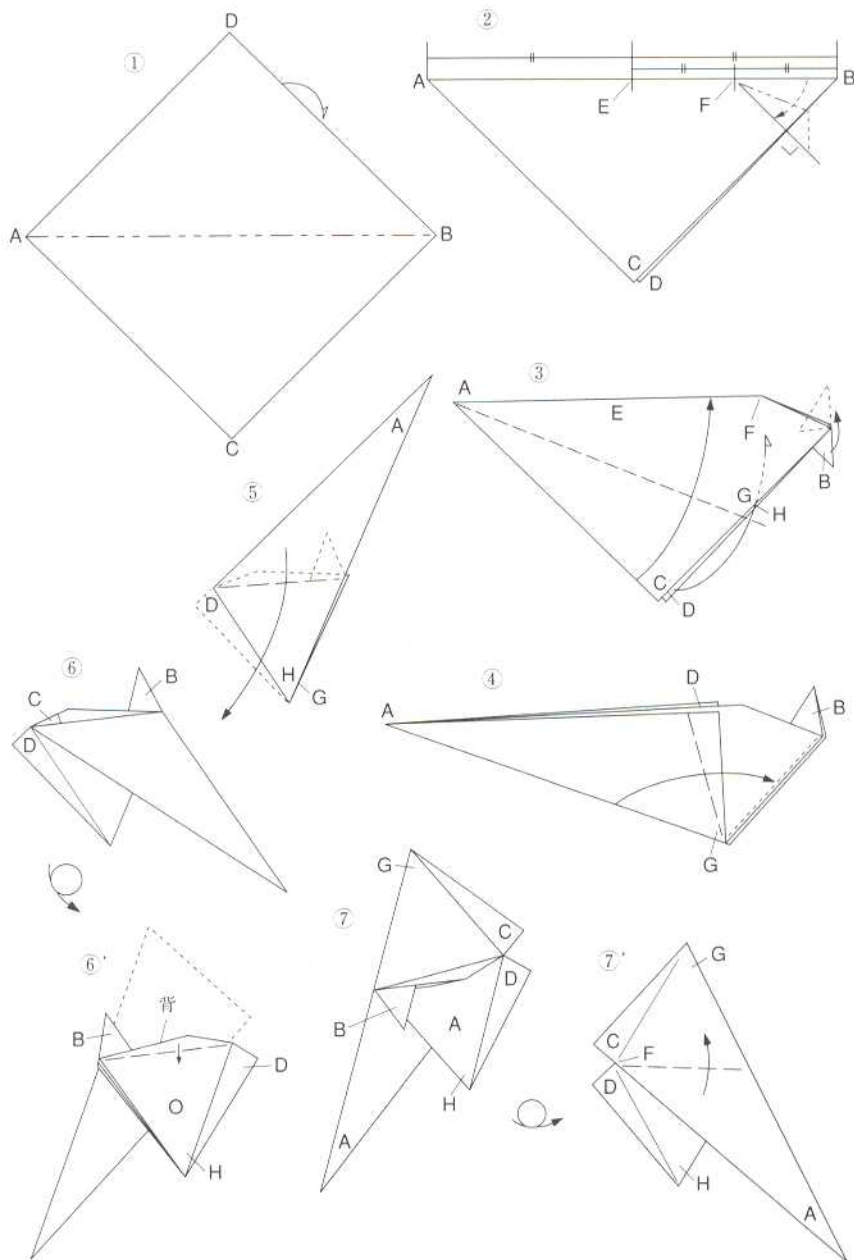
⑭⑮ Aを谷線と山線で先を平らにひろげてから甲らの中へ入れて、全体の形をととのえる。

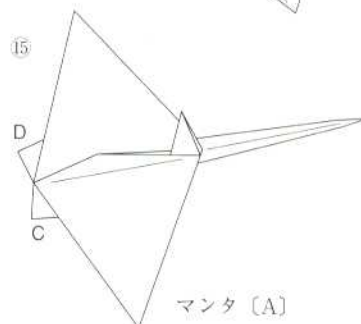
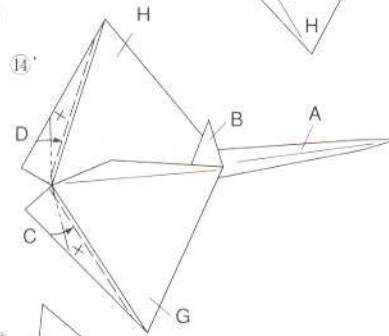
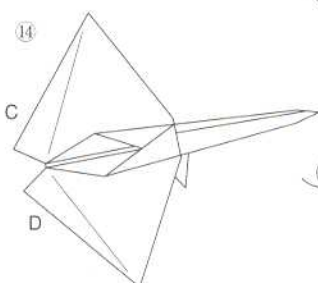
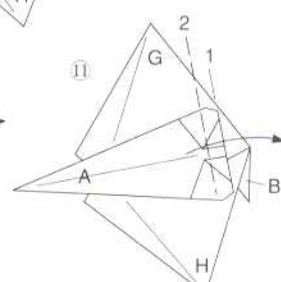
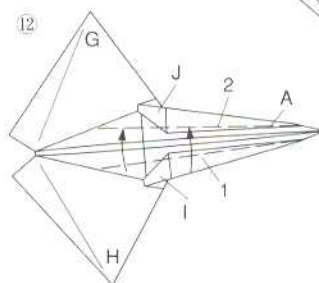
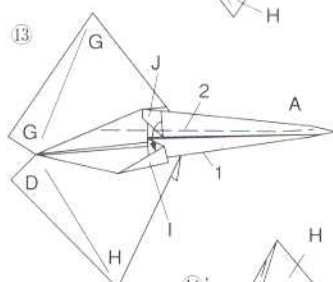
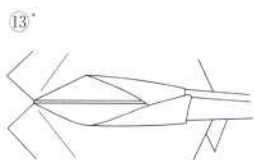
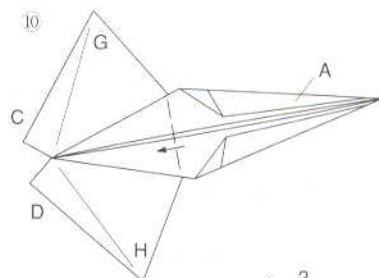
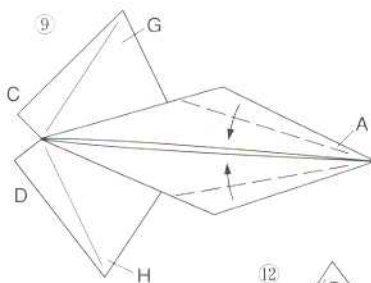
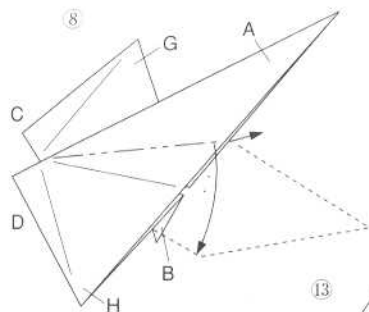
⑯出来上がり。



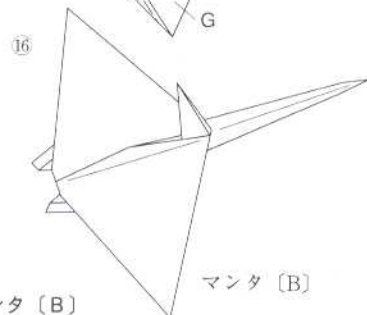
マンタ [A]

- ① 正方形の紙を、A B の対角線から D を裏へ折る。
- ② 対角線 A B の1/4の F 点を支点として B を山線から図のように折り込む。
- ③ B を点線へ引き出し、C と D を対角線 A F の線に合せて外側へ折る。
- ④ G のカドを支点として A G を矢印に曲げ、点線に合せて谷線の位置を決めて折る。
- ⑤ D を引き出し、A を矢印に折る。
- ⑥ 裏返す。
- ⑥' 背の部分を谷線で細く折り返し、H の内側に重なっている G を開き出す。
- ⑦ 裏返す。
- ⑦' A を矢印に折る。

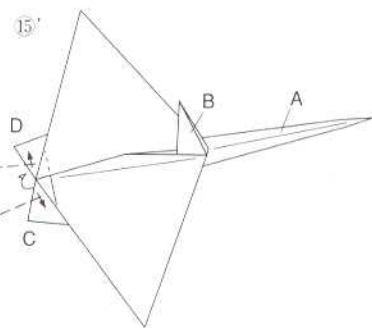




マンタ [A]



マンタ [B]



⑧ A を山線で内側を袋状にして、点線へ平らに折る

⑨⑩ 矢印に折る。

⑪ A を谷線で折り返す。

⑫⑬ 谷線 1、2 の順に折る。I と J は下になっている部分を引き出して⑬'のように差し込んで形をととのえる。

⑭ 裏返す。

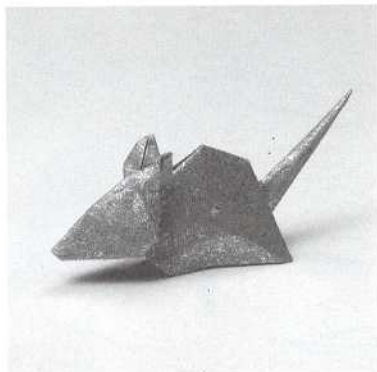
⑭' C、D のカドを、山線を折ってから谷線で矢印に折り込む。

⑮ マンタ [A] 出来上がり。

マンタ [B]

⑮' [A] の出来上がりの C、D のカドをかくく引き出しながら左右に折り、中心のカドを裏側へ折って形をととのえる。

⑯ マンタ [B] 出来上がり。



正方形の紙を①のように折ってから谷線1を折って、②のように折り目をつけてのばし、さらに谷線2を折って、③のように折り目をつけてから、3の谷線と4を折って④のようにする。

④ Aを点線の内側から折り返す。

⑤ AをE Fの間へ折りさげる。

⑥ 谷線の位置からEを折りあげ、Fも裏側へ同様に折る。

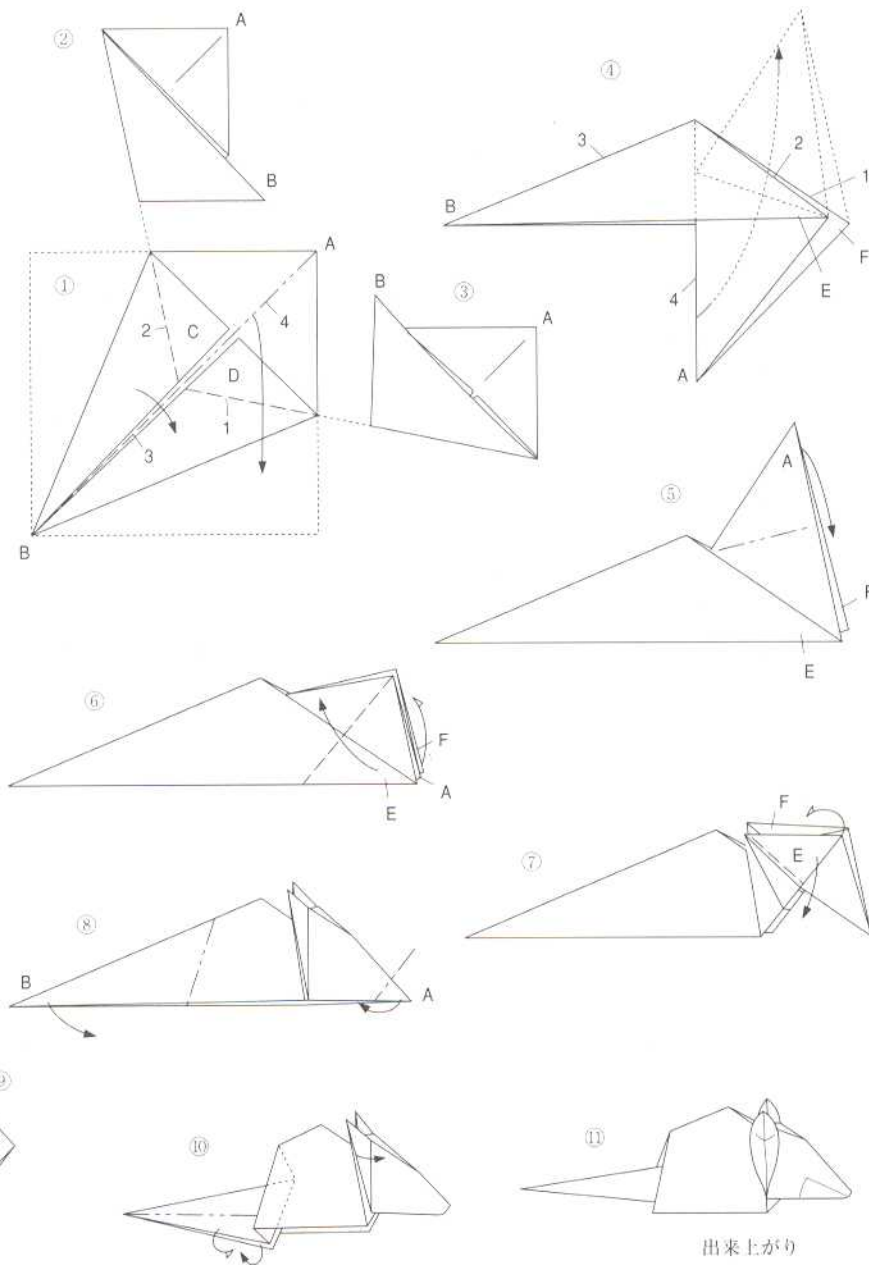
⑦ E Fを開いて折りかぶせる。

⑧ Aの先とBを折り込む。

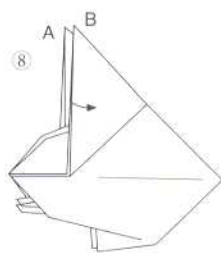
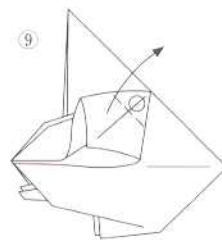
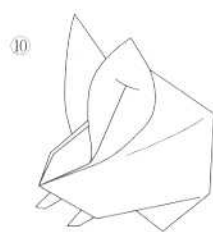
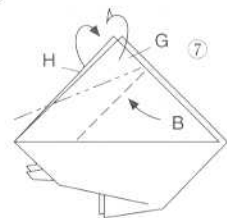
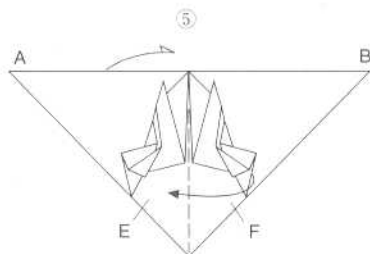
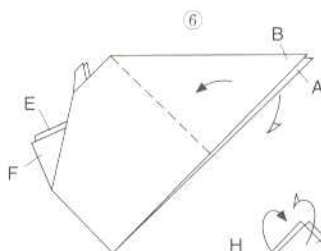
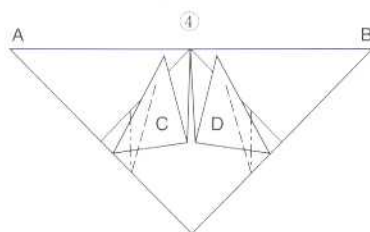
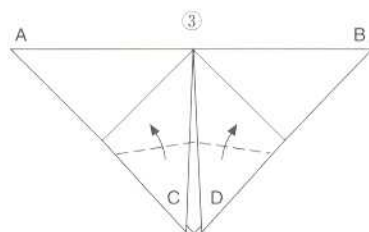
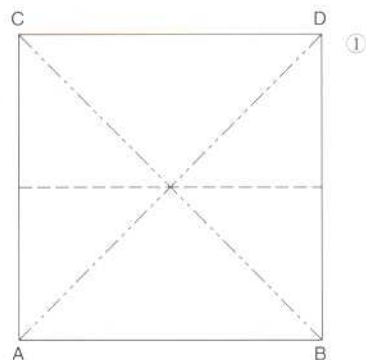
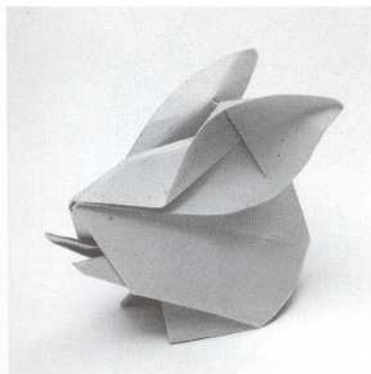
⑨ 顔の下を折り込み、Bを折り返す。

⑩ 尾を細く折り込み、耳をひろげ、頭とからだの内側へ指を入れて形をととのえる。

⑪ 出来上がり。



—はねうさぎ—



①正方形の紙に山線と谷線に折り目をつけて②のように折りまとめる。

②C Dを折りさげる。

③C Dを折る。

④C Dにななめに段をつける。

⑤Fを左にたおし、Eと合せ、Aを裏側に折ってBに合せる。

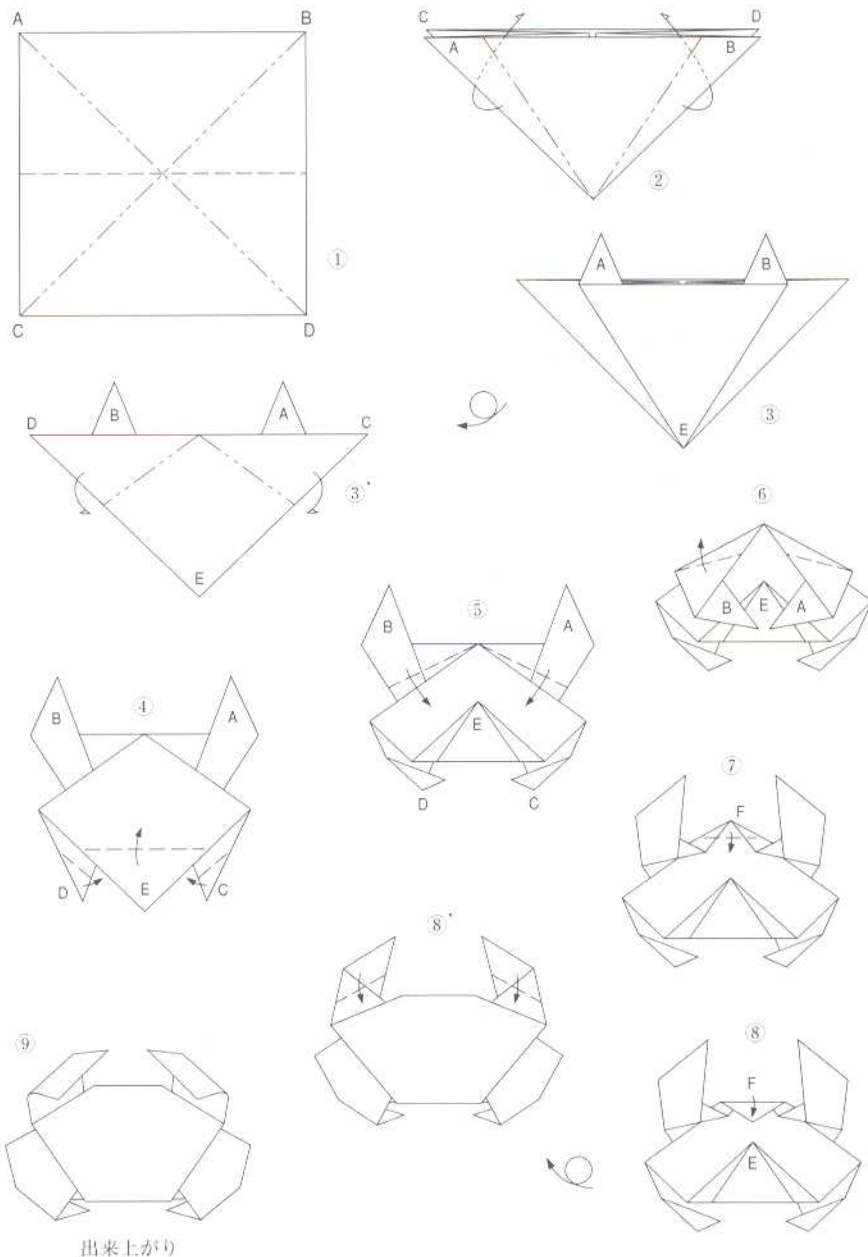
⑥A Bを外側へ折る。

⑦山線の位置でG Hを折り込んでから、谷線の位置でBとAを折りあげる。

⑧耳を⑨のようにひろげ、○印のところを押しつぶし、谷線に折り目をつけながら矢印にひき出して形をととのえる。

⑨耳のつけねのところをもって、口から息を吹きこんでふくらめると、からだの形が前から見て三角形になって出来上がり。前足が台につくようにおき背中をすばやくなでおろすようにすると前にはねる。





①正方形の紙を山線と谷線に折り目をつけて②のようにする。

②AとBを山線で間へ折る。

③裏返す。

③'CDを間へ折りさげる。(角度のきめ方によって甲らの形がきまる)

④Eを折りあげ、CDを斜めに折って足をつくる。(Eを折りあげる位置は、CDを折りさげる角度によって、縦長または横長の甲らになる)

⑤ABを斜めに折りさげる。

⑥谷線のところから折りあげてはさみにする。

⑦Fのカドを折る。

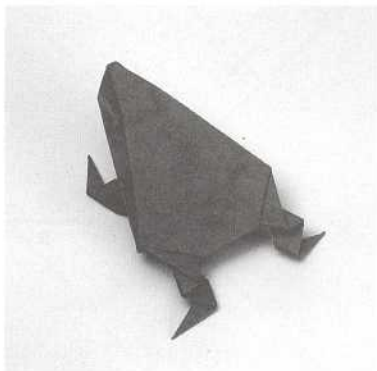
⑧裏返す。

⑧'はさみを折る。

⑨出来上がり(写真左)。

はさみの角度を体とのつり合いを考えて写真右のように変化させることができる。CDの足とEの支えて甲らを斜めにかたむけて立てる。

出来上がり



正方形の紙を手にとって切り口に平行にかかるくそらしてみる。曲げやすい方（縦紙）と弾力の強い方（横紙）とがある。

①のように紙の縦横をきめて、山線と谷線に折り目をつけて折りまとめる。

②③ACとBDを重ねたまま折りまとめる。

④を②のようにひろげて内側のAとBを外に出して、たたみかえてCをAの裏に、DをBの裏にする。

⑤Bを矢印にかえす。

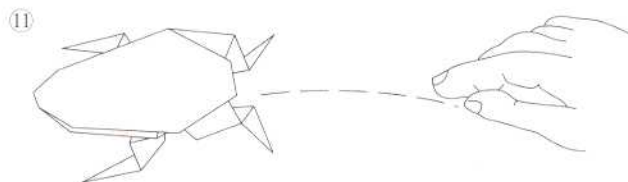
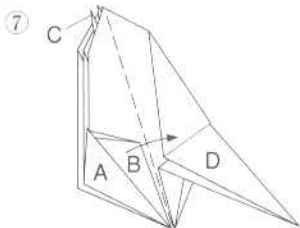
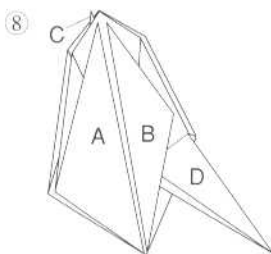
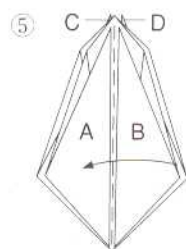
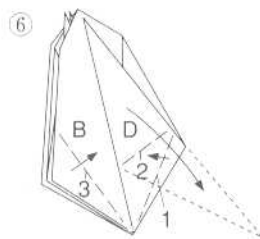
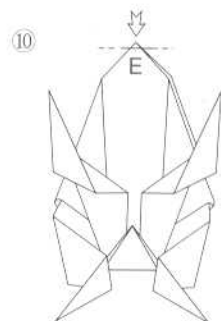
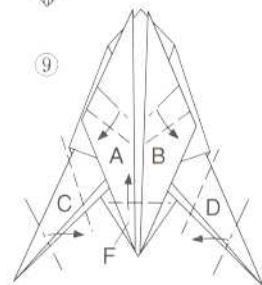
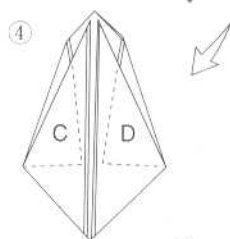
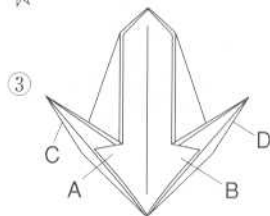
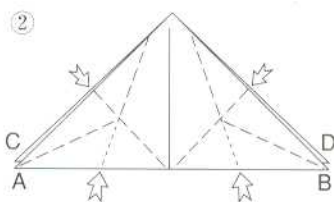
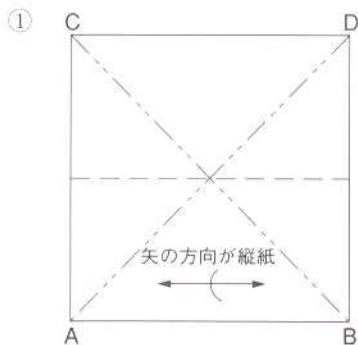
⑥Dを谷線1、2の順に折って点線へ開き出し、3の谷線でBのカドを折る。

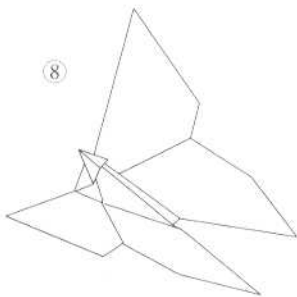
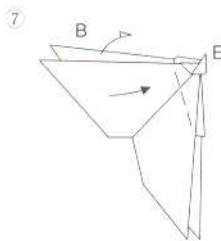
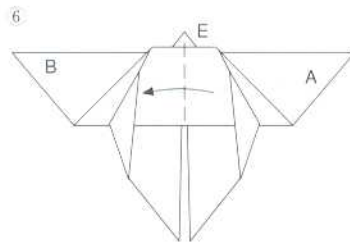
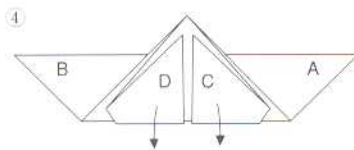
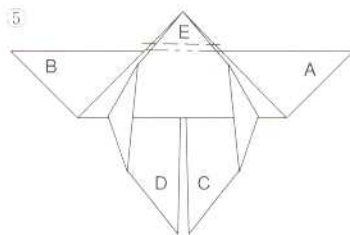
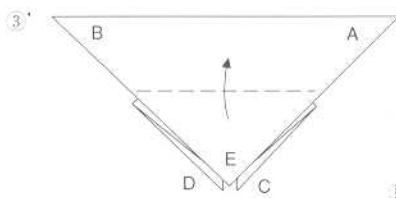
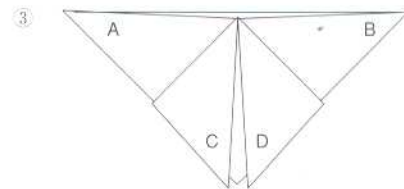
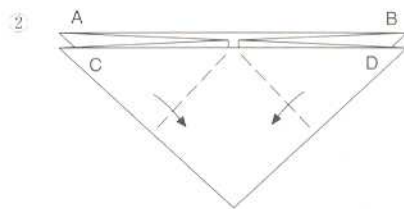
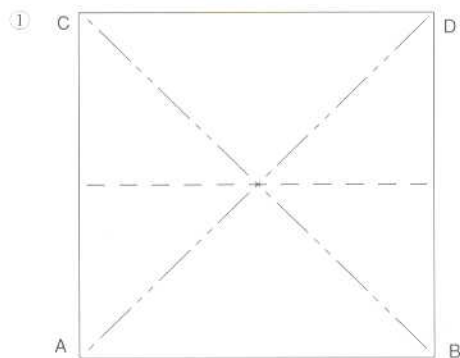
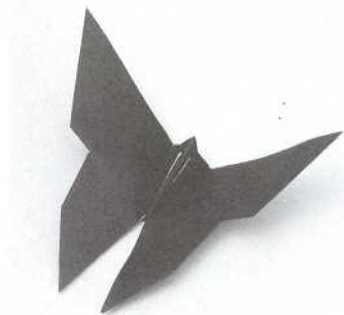
⑦Bを矢印に返す。

⑧左側のACをBDと同様に折る。

⑨⑩Fを折りあげてから、前足と後足をつくり、Eのカドを折り込んで形をととのえる。

⑪出来上がり。お尻のところをかるくおさえて、すべらすとピョンとはねる。





- ① 正方形の紙に図のように山線と谷線の折り目をつけて②のようにする。
- ② CとDを矢印に折りさげる。
- ③ 裏返す。
- ③' 谷線から折りあげる。
- ④ DとCを矢印にさげながら、左右にできた袋状の三角をおしつけて平らにする。
- ⑤ Eに段をつけて頭にする。
- ⑥ 縦に二つに折る。
- ⑦ 谷線の位置でからだをつくりながら両方の羽を折る。
- ⑧ 出来上がり。

## 略歴



東京泰明実業補習学校にて(上段右から3人目の着物姿が本人)  
1925年(大正14) 14歳



国際交流基金よりヨーロッパに派遣され、ノルウェーの  
大学で児童文学を学ぶ学生に講義  
1972年(昭和47) 61歳

- |                 |                                                                                             |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1911年(明治44)     | 栃木県に生まれる。幼少の頃より折り紙に親しむ                                                                      |
| 1926年(大正15) 15歳 | 東京泰明実業補習学校卒業                                                                                |
| 1938年(昭和13) 27歳 | 鉄工所に働きながら、本格的に折り紙の研究に入る                                                                     |
| 1950年(昭和25) 39歳 | 栃木県教員組合の推薦により、教育的美術造形としての折り紙を教職員らに講習                                                        |
| 1952年(昭和27) 41歳 | 『アサヒグラフ』の『折紙の新世界』で作品が紹介され、以来、新聞や雑誌、展覧会などで折り紙を社会的に広める                                        |
| 1954年(昭和29) 43歳 | 東京で開かれたユネスコ主催の美術工芸教育国際研究会に出席。初の著書『折り紙芸術』刊行される。国際折り紙研究会を創設し、国内外の折り紙の発展と愛好者の交流に努める            |
| 1955年(昭和30) 44歳 | オランダのアムステルダム市立美術館において海外初の個展を開き、画期的な造形美術“ORIGAMI”として世界の注目を浴びる。その後、海外をはじめ、国内の百貨店やギャラリーで展覧会を開催 |
| 1957年(昭和32) 46歳 | 著書『折り紙読本』を刊行。また『千羽鶴折形』を解説、普及させる                                                             |
| 1959年(昭和34) 48歳 | ニューヨーク市クーパーユニオン美術館において展覧会。引き続いて開かれたアメリカ各州の巡回展によって各地にORIGAMIを普及させる                           |
| 1963年(昭和38) 52歳 | 著書『たのしいおりがみ』が毎日出版文化賞を受賞                                                                     |
| 1964年(昭和39) 53歳 | 長年さがし求めていた折り紙の古書『何哉草 <sup>なにやがさ</sup> 』の原本を、朝日新聞大阪本社調査部で見つける                                |
| 1966年(昭和41) 55歳 | 外務省から折り紙の講師としてオーストラリアやイタリア、フランスへ派遣される                                                       |
| 1971年(昭和46) 60歳 | モービル児童文化賞受賞                                                                                 |
| 1972年(昭和47) 61歳 | 国際交流基金の要請でヨーロッパなどを訪問。以後、1998年まで世界数十か国を訪問し、作品展や講演、ワークショップを行う                                 |



パリのピエール・カルダン劇場で折り方を紹介  
(中央がカルダン氏) 1984年(昭和59) 73歳



スペインのセビリア万国博覧会場で、日本政府館を訪  
問された皇太子殿下にご説明

1992年(平成4) 81歳

- 1983年(昭和58) 72歳 折り紙による文化の普及に尽くした功績により、勲五等雙光旭日章を叙勲される
- 1984年(昭和59) 73歳 パリのピエール・カルダン劇場で「日本の折り紙展」(朝日新聞社主催)開催。チューリッヒ「フェノメナ展」に招聘され参加。松屋銀座で「創作折り紙展」(朝日新聞社主催)開催
- 1986年(昭和61) 75歳 世界各国に折り紙とその背景になる日本文化の紹介に尽くしたことが認められ、外務大臣賞を受賞
- 1987年(昭和62) 76歳 中国杭州市における日本週間へ何度も出向き、創作折り紙を紹介。イタリアのミラノ市の招聘により作品展を開催。またローマ日本文化会館主催の個展が開かれる
- 1989年(平成元) 78歳 ベルギーの「世界折り紙展」に特別出品と講演
- 1990年(平成2) 79歳 松屋銀座で「創作折り紙展」開催
- 1991年(平成3) 80歳 ORIGAMI ART「假面展」を東京にて開催
- 1992年(平成4) 81歳 スペインのセビリア万国博覧会の日本政府館に、「日本の四季」を折り紙で展示する。イタリアのジェノバ市の博覧会にも同時展示
- 1993年(平成5) 82歳 フランスのパリ市およびサンフロランタン市での世界ミュージック・フェスティバルに招かれ、特別展覧会を開催
- 1994年(平成6) 83歳 アメリカ2都市における作品展示と講演に招聘される
- 1995年(平成7) 84歳 横浜市の有隣堂ギャラリーにおいて展覧会。練馬区立美術館で国際折り紙研究会の四十周年記念展を会員とともに催す。ドイツの3都市にて展覧会と講演を開く
- 1996年(平成8) 85歳 著書『生命豊かな折り紙』を刊行
- 1999年(平成11) 88歳 米寿記念「吉澤章 創作折り紙」展(朝日新聞社主催)を東京・松屋銀座、札幌・丸井今井、京都・高島屋、埼玉・川越丸広で開催
- 2000年(平成12年)



会期・会場

1999年10月6日(水)―10月18日(月)——東京・松屋銀座

2000年1月27日(木)―2月8日(火)——札幌・丸井今井

2000年4月27日(木)―5月9日(火)——京都・高島屋

2000年7月27日(木)―8月1日(火)——埼玉・川越丸広

主催

朝日新聞社

協力

国際折り紙研究会

米寿記念「吉澤 章 創作折り紙」展

編集・発行——朝日新聞社 文化企画部

撮影——大塚巧藝社(久保 良)

制作——大塚巧藝社

©1999朝日新聞社

